

私の研究室紹介

生命薬科学系 病態生理学分野

6^{とうじ}年次生 杜氏 裕美子

病態生理学分野は、がんや神経変性疾患（アルツハイマー病、パーキンソン病等）といった未だ確立されていない難治性疾患の治療法を、「臨床現場」と「研究室」の架け橋となって開発する「橋渡し研究(Let's Enjoy Translational Research)」という言葉掲げて研究しています。

研究を進めるにあたり、実験方法の組み立て、細胞の培養方法やデータ解析の手技取得等、様々な問題に直面します。当研究室では、一人ひとりがじっくり問題に向き合い、解決策を考えることを尊しとしています。既存の概念による先入観にとらわれず、一度やってみることが意外な発見となり、研究を円滑に進める手がかかりとなることがあります。当研究室ではだれも

がみなチャレンジする機会と環境に恵まれています。さらに、研究経過発表(Research in Progress)では、先生方や院生をはじめとする全学生が一丸となって意見交換し問題解決に努め、臨床治療開発に向けたより意義のある実験を行うためのカンファレンスの場となっています。

臨床を意識した研究マインドを持った薬剤師として活躍する力や素養が、分野での生活で自然に養われていると実感したのは、病院での実務実習を通して外の世界に出たときでした。そこでは、医療従事者、様々な背景を抱えた患者さんやその家族が一丸となって日々よりよい治療のために邁進しています。常に何かのために考え、意識して取り組むこの構図は、分野での活動と通ずるものがありました。

難治性疾患の根本的治療法の開発に興味があるみなさん、一緒に研究をしましょう！

分析薬科学系 薬品分析学分野

6年次生 杉田 紫帆／中野 祐里

みなさん、こんにちは。薬品分析学分野です。まず初めに研究内容について紹介します。

私たちの研究室では、人にやさしい血液検査法、さらにエマルジョンやリポソームといった微粒子を用いたDDSや安価で簡便な新しい臨床分析法を開発しています。その中で、臨床で利用されているMRIと同じ原理を用いたNMRという機器や動物を使った研究も行っています。

次に研究室の様子についてお届けします。イベントとして新歓、卒コン、お花見…etcがあります。前回のお花見では全員で山科疎水に行きました。学年の枠

を越えてワイワイ楽しく過ごしました。研究室も全体的に明るい雰囲気で行っています。誕生日会をしたり、一緒にご飯を食べに行ったりしています。縦と横のつながりもしっかりあって、研究に関する以外の相談にもものってもらえます。すごくアットホームな環境ですよ。

是非、研究室見学の際には研究内容だけでなく雰囲気も見に来て下さいね。待ってます。



創薬科学系 生薬学分野

5年次生 安井 理絵

生薬学分野では、主に天然薬物や薬用食品に含まれる生体機能性成分の探索を目的とし研究を行っています。すなわち、医薬品リード化合物やリード化合物の開発を目標とし天然薬物を素材として用い、含有成分の化学構造の解明、機能性成分の探索および活性成分の作用メカニズムの解明研究を進めています。その中で、私は含有成分探索チームに所属しており、タイ伝承薬物から含有成分の単離を行っています。抱えてもつほど大きなナスフラスコを用いて天然薬物からエキスの抽出を行い、得られたエキス、分画を筒状のオープンカラムクロマトグラフィーを用い成分の単離を行っています。カラムクロマトグラフィーは、様々な

大きさのものがあり、大きいものでは直径30cm、高さ2mくらいになります。最終的に、分離した成分をHPLCにより精製し、得られた成分の構造をNMRをはじめとする物理化学データの解析および化学反応等の結果から決定します。実験が思うように進まず、試行錯誤を繰り返したこともあります。思わぬところで新たな発見がありとても刺激的な毎日です。実験を進めていく中でまだ誰も発見していない新しい化合物を見つけた時の喜びはひとしおです。『ああ、このために頑張ってきたのだな』と思わせてくれます。

また、研究活動以外では他学年とも交流を深め、お誕生日会や食事会などを開催しています。クリスマス会にプレゼントを持ち寄り皆で交換を行うなど、和気あいあいとした研究室の雰囲気も実験をはかどらせる要素となっています。

病態薬科学系 薬理学分野

4年次生 松井 梓／松井 利江子

私たちは、躬行館5階の中央にある薬理学分野を紹介したいと思います。

薬理学分野の研究テーマは、①イオンチャネル関連疾患の分子薬理学的研究と②アトピー性皮膚炎の痒みに対する新規治療薬の創薬研究に分かれています。イオンチャネルの研究テーマでは、がんや炎症性腸疾患の発症機構の解明と創薬に注目し、それら疾患の創薬標的になるイオンチャネルを探索しながら日々実験に励んでいます。私（松井梓）は、ヒト前立腺がんのホルモン耐性獲得におけるイオンチャネルの役割を解明するために、ヒト前立腺がん細胞株をある条件で処置し、イオンチャネル発現変化を検討しています。細胞培養は難しいのですが、今では少しの細胞の変化も見極められるほどになりました。また、アトピー性皮膚炎の研究テーマでは、最も苦痛を与える症状である痒

みを鎮める鎮搔薬の開発を目指して研究しています。私（松井利）は、マウスから皮膚を採取し、疾患の原因となる遺伝子を探索しています。実験の手技の習得には時間がかかりましたが、その分やりがいを感じます。

日々の研究成果をまとめて薬理学会や薬学会で発表することもできます。また、研究室生活では実験だけでなく、イベントもたくさんあります。ソフトボール大会や研究室旅行、忘年会など先生方にも参加していただき、充実した日々を送っています。

研究内容に少しでも興味のある方は是非研究室まで見学に来てくださいね。



附属施設 薬用植物園

にかわ ちひろ
5年次生 二川 千丈

皆さんが植物園と聞いて思い浮かべるのはどのような光景でしょうか。手入れの行き届いた花壇、そこに咲く四季折々の花、また整備された通路でしょうか。とにもかくにも視覚的に美しくデザインされた場所でありましょう。そのイメージに新たな概念を植え付ける、そんな場所をご紹介します。

“薬用植物は雑草である”とは2013年に退職された後藤勝実先生が常々口にされていた言葉です。“雑草であるからこそ悠久の時を経た今でも効能が変わらず利用出来るのだ”と。その考えに基づき構築された京都薬科大学附属薬用植物園はまさに自然そのものなのです。

月岡助教の言葉をお借りすれば「皆さんが想像する

植物園はGardenであり、うちはMountain」だと。この言葉の妙な説得力は実際に訪れた人だけに通ずることかもしれません。現に来園された方々は「思っていたよりも山だった」と、一様に口にしますので。

ではその“山”で、どのような研究をするのか。それはもちろん薬用植物の栽培です。研究とは実験室で器具を扱い機械に触れ、分析を行うものだと思っはいませんか。近年漢方製剤が見直され生薬の国産化の動きも出てきています。国産化には規格を満たした生薬の安定供給が必須であり、植物の発芽率・収穫率の向上、作業の効率化が重要な研究の一つとなります。ただ薬に触れているだけでは垣間見ることが出来ない世界。誰かがやらなければいけない薬の原点。私たち薬用植物園所属の学生が日々携わっているのはそんな世界の一端なのです。

医療薬科学系 薬物動態学分野

かくむ
5年次生 各務 栄作

私が所属する薬物動態学分野では、本年4月に着任された柴田敏之教授の御指導の下、伊藤由佳子講師、河瀬真治助教、6年次生11名、5年次生11名、4年次生7名、3年次生16名で研究に取り組んでいます。主な研究テーマは、1)薬物血中濃度測定及び遺伝子関連情報に基づいたがん化学療法個別化に関する研究、2)薬物動態学的、薬力学的な情報に基づく薬物治療法の適正化に関する研究、3)薬物の組織分布特性に関する研究、4)医薬品の安全性確保のための非臨床薬物動態試験システムの構築、5)マイクロニードルを利用したTDM代替法に関する研究、です。実験の種類としては

動物実験が主になりますが、得られた実験結果を共同研究先である臨床現場などと共有して、より良い薬物治療の提供を目指しています。週1回のセミナーでの発表を介して英語論文にも親しんでいます。1人1テーマの研究課題が与えられており、卒業するまでに少なくとも1回、学会発表することが目標です。これらを通じて、動物実験手技、超微量分析、薬物動態学的解析などのスキルを、一方で、プレゼン能力も磨いています。先生方は、研究やセミナーだけではなく、国家試験に関する勉強から進路相談まで何でも優しく親身に相談に乗ってくれます。いい意味で先輩・後輩の垣根がなく、非常に明るい雰囲気の中、研究室生活を過ごしております。薬物動態学分野に興味がある方は、ぜひ一度南校地S棟3階までお越しください。

基礎科学系 健康科学分野

5年次生 浅野 俊／岡崎 望

健康科学分野では、人々の生活の質(QOL)の向上や健康寿命の延伸にむけた方策づくりのための研究をおこなっています。具体的には、生活習慣病者や高齢者に対する身体活動(運動・スポーツ)や食事が、体力などの身体的機能、血管機能などの生理的機能、感情などの心理的機能にどのような影響を及ぼすのかなどです。また、健康状態を把握するための適切な測定方法や評価指標づくりもあわせて進めています。このような活動の中では、対象者だけでなく医療関係者との接点もあり、今後医療人になることへの意識が高まります。また、このような研究活動の一方で、週に2回程度行われる英語論文の抄読会や薬剤の効能機序の調査・発表会を通して、英語能力、知識、プレゼンター

ション能力の向上が図られます。英語論文の読解、薬剤の効能機序の説明など、はじめのうちは苦勞しますが、何度も繰り返し進めていくうちに、コツがつかめて、日々上達するのがわかります。

健康科学分野は人との関わりを大切にします。興味のある方は、是非、健康科学分野と一緒に勉強をしましょう！！



病態薬科学系 臨床腫瘍学分野

5年次生 谷口 恵香^{けいこ}

臨床腫瘍学分野は、吉貴教授主導のもと主に助教の飯居先生に実験手技を教わりながら、大学院生1人、5年次生12人、4年次生10人、3年次生16人で実験を進めています。設立はわずか4年前であり、かなり新しい研究室です。歴史も功績も私たちが作り上げていかなければなりません。しかし、過去に囚われることのない新たな発想のテーマに取り組んだり、自らの手で最適な実験条件を模索したりするというのは、きっと得難い経験になると思います。

名前の通り、そのテーマは主に「がん」についてです。大まかに分類すれば、新規腫瘍マーカー、がん細胞の新たな増殖機構、抗がん物質の探索…など。これから研究室を選ぶ皆さんの琴線に触れるようなフレーズはあるでしょうか。臨床「腫瘍」学という名前です

が、私個人の研究はがんとは直接関係ないテーマです。「先天性膀胱尿管逆流症(白人の新生児では約10%の高い罹患頻度)」という疾患の原因が特定の蛋白質の遺伝子変異にあるのではないかという独自の仮説を証明するべく、日夜研究に励んでいます。ちなみに、この蛋白質の疾患マーカーとしての可能性については、世界最大の診断薬企業ロシュ・ダイアグノスティクス社が評価中です。

私は実験が好きです。自分の手で作ったもの・育てたものが、ひょっとしたら世界で初めての発見となるかもしれない。夜遅くまで実験が長引いたり、休日に学校に来なければならなかったり(もちろんそんなことは稀ですが)、辛いことがあっても続けられるのはそのためです。がんの最先端の研究に興味がある人、生物学の研究がしたい人、単に実験が好きの人。一緒にその高揚を味わってみませんか。お待ちしております。

生命薬科学系 生化学分野

4年次生 一同

ヒトの体は約60兆個の細胞から構成されており、これらの細胞が正常に働くことが生命活動を営む上で重要です。細胞は、DNAの複製と分配、それに引き続く細胞質分裂という段階を経て、2つの娘細胞が作られることで増殖します。細胞分裂時において最も重要なことは複製された染色体が均等に2つに分配されることです。この制御機構が破綻すると、染色体の分配異常などが生じ、疾患につながる場合があります。このメカニズムには未解明なことがたくさんあり、これらの解明が疾患の発生機構の解明につながると考え、当研究室では主に、①細胞分裂・細胞周期の制御機構の解明、②分子シャペロンと細胞分裂の関係の解析、③細胞分裂の異常と細胞のがん化・悪性化の関連の解

析、の3つの視点よりアプローチしています。学生1人ずつに異なる研究テーマが与えられ、担当教員とディスカッションしながら個人で研究を進めていきます。実験するのはもちろんのこと定期的にセミナーが行われ、実験報告や文献紹介などをします。実験報告では、「どうすれば教員や学生に自分の研究を理解してもらえるか」ということに重点を置き教員と学生の前で発表します。文献紹介では、自分の研究内容に沿った英語の論文を読み発表することで、その研究領域の知識を増やすとともに、研究の進め方・考え方・実験方法を学びます。このような研究活動を通して、論理的思考力・計画性・問題解決能力が身に付き、プレゼンテーション能力も鍛えられます。生化学研究室では、薬学生としての勉強と研究の両立に励む・大学院進学を目指す・学会での発表を目指すなど、各自がそれぞれの夢や目標を持って日々努力しています。

特集

「知的財産・産学官連携センター」 「国際交流センター」を設置しました

本学では、本年4月1日付で、「知的財産・産学官連携センター」と「国際交流センター」という2つの新たな附属施設を設置しました。また、それぞれに対応する事務局の部署として、「研究・産学連携室」と「国際交流推進室」とを新設しました。21世紀に入って、ますます加速化しているグローバル化、そして複雑化する日本などの先進諸国の社会の中にあつて、大学の果たすべき役割も大きく変わらざるをえなくなってきました。今回の2つの新施設・部署の設置も、本学の将来に向けての大きな一歩となることが期待されています。これらの施設・部署が十二分に活用されることを願って、本号の特集といたしました。

KPUNews編集委員長 鈴木 栄樹

本学の知的財産・産学官連携について

2001年4月19日に京都薬科大学特許取扱要綱が施行されて以降、本学の教育職員が行なった発明による特許の取り扱い、原則として当該職員に帰属するものと認められてきました。

しかしながら昨今、大学が果たすべき使命として、従来の教育及び研究に加えて社会貢献が求められるようになりました。知的財産基本法では「大学等は、その活動が社会全体における知的財産の創造に資するものであることにかんがみ、人材の育成並びに研究及びその成果の普及に自主的かつ積極的に努めるものとする」、教育基本法では「大学は、学術の中心として、高い教養と専門能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする」とそれぞれ定められています。これらのこと等から、大学における知的財産管理および産学官連携活動は、今や不可欠なものとなっています。

これらのことを受けて、本学は乾学長の命のもと、2014年度から知的財産管理および産学官連携体制の構築に取り掛かりました。まず知的財産管理および産学官連携を推進する学内組織として、「知的財産・産学官連携センター」を2014年4月1日に設置しました。センター長は、乾賢一学長が務めています。知的財産・産学官連携センターには事業計画・推進を司る組織として「知的財産・産学官連携センター運営委員会」を設置しています。運営委員会では、知的財産・産学官連携、知的財産教育や啓発に関する事業計画立案・実施を審議します。センターにはこのほかに「知的財産評価審査部会」を設置し、本学職員等が行った発明等の技術的評価・審査や知的財産権の帰属等について審議します。

また2014年4月には、岐阜薬科大学（幹事校）、京都薬科大学（重点支援校）、明治薬科大学および大阪薬科大学の4校からなる「薬学系大学広域大学ネットワーク」を構築しました。現在ネットワークでは、各大学が知的財産管理および産学官連携体制構築を推進するための情報共有を行う会合を定期的に開催しているほか、特許庁と関わりの深い（独）工業所有権情報・研修館（INPIT）から、知的財産に関する専門家である広域大学知的財産アドバイザーとして野口正弘氏（本学客員教授）の派遣を受けています。本学においては4月以降、野口アドバイザーの支援のもとで知的財産・産学官連携活動に関する規程等の整備や職員向け研修会を開催しています。

規程整備等を通じた体制整備状況としては、2014年8月1日付で産学官連携ポリシーおよび知的財産ポリシーを制定し、本学の産学官連携・知的財産管理における方針を確立しました。更に同日付で発明等取扱規則を施行し、本学職員等の発明を機関帰属とすることを明記するとともに、発明等が行われてから特許権等の権利化に至るまでの手続きや取り決めを明確にしました。この他、研究活動の成果である成果有体物の取り扱いについて定める成果有体物取扱規則も8月1日付で施行し、本学における知的財産管理の更なる充実を図っています。

今後は、産学官連携活動を一層推進するため、学内の研究シーズを集約した研究シーズ集作成や研究者データベース構築を計画しています。また、技術展示会等への出展も視野に入れており、京都薬科大学の知的財産・産学官連携活動を更に活発に推進していく計画です。

事務局 研究・産学連携推進室
室長代理 武野 薫

「研究・産学連携推進室」について

事務局「研究・産学連携推進室」（以下、「推進室」）は、2014年4月1日に発足しました。2014年9月1日現在、事務職員3名（室長代理1名、係長1名、事務補助臨時職員1名）で業務を行っています。

推進室は、知的財産・産学官連携センターの事務を担当して本学の知的財産管理および産学官連携活動を支援しているほか、科学研究費補助金、受託研究・共同研究、研究助成団体等による研究助成金への応募業務などを担当しています。

知的財産管理および産学官連携活動支援については、産学官連携センター運営委員会の運営支援、諸規程の草案作成から会議等への提案のほか、学外機関からの産学官連携活動に関する問い合わせ等の窓口対応を担当しています。また、推進室には知的財産管理等に詳しい産学連携コーディネータを配置しており、今後は教育職員と密に連携して、本学の産学官連携活動を推進していきます。

科学研究費補助金業務では、科学研究費補助金の

公募案内に始まり、学内申請書類のとりまとめから応募、採択課題に関する交付申請業務などを行っています。科学研究費補助金の採択件数・金額は大学の研究レベルを示す重要な指標とも言われており、今後これらの実績が更に向上するよう教育職員の支援に務めていきます。

受託研究・共同研究支援業務は、契約書締結が主な業務となります。これらの業務は、今後、産学官連携活動を充実させていくほか、教育職員が研究活動に集中するための重要な業務であります。

この他に推進室では、公的研究費の不正使用防止や研究活動の不正防止の取組みも担当しています。昨今、これらの取組みが非常に重要視されており、ガイドラインに即した管理体制を早急に整備することが望まれています。今後、推進室が中心となり、これらの体制構築を推進していきます。

事務局 研究・産学連携推進室
係長 栗田 晃

本学の国際交流について

本学は、近年大学に求められている「国際化・国際交流の推進」を達成するために、2014年4月1日付けで「国際交流センター（センター長：乾賢一学長）」を設置しました。同センターは、「本学の国際化について企画・立案するとともに、外国人留学生および海外留学を希望する学生に対し必要な支援を行うことにより、本学の国際交流の推進に寄与する」ことを目的としています。また、国際交流センターの設置に合わせて、同センターの事務を取り扱う部署として、事務局に「国際交流推進室」を設置しました。国際化および国際交流の推進は本学が策定している「第2期中期計画(2012～2016)」の推進項目でもあります。その達成のため、2014年7月1日付けで「京都薬科大学国際化ビジョン」を策定し、次の9項目の施策を重点項目と位置付け、実行することとしています。

【国際化推進のための9項目】

1. 外国語教育の充実に向けたカリキュラム作りの推進
 - ①「第2外国語」の充実（ドイツ語に加え、中国語およびフランス語の開講）。
 - ②薬剤師に必要な語学力養成教育である科学英語および専門薬学英語を1～4年次まで開講。
 - ③2013年度から導入した1・3・5年次の学生全員にTOEICを受験させるシステム（受験料は大学負担）の継続実施。

- ④外国人講師による「医薬品開発のためのサマープログラム(2013～)」(医薬品開発業務受託機関との共催)の継続実施。
2. 海外からの留学生の受入推進
 - ①外国人留学生向け各種英語版資料の作成。
 - ②国際学術交流協定締結大学の教員・学生を招待し開催する「英語での卒業論文発表会(ポスター発表、2013～)」の充実・活性化。
3. 学部学生の海外派遣推進
 - ①ドイツのフライブルク大学が開催する「日本人のためのサマープログラム」の「海外語学研修」への学生派遣(毎年30名程度)。
 - ②Massachusetts College of Pharmacy and Health Sciences (MCPHS:アメリカ) Worcester校への本学独自研修プログラム(期間:10日間程度)を構築し、毎年10名程度の学部学生の派遣を目指す。
 - ③上記①、②合わせて、今後5年間累計で200名の学部学生を海外に派遣する。
 - ④高学年次における海外医療機関での研修を企画・検討。
4. 4年制博士課程の大学院学生の海外派遣推進
 - ・海外の大学および医療機関での研究・研修を目的とした留学制度(期間:3～6ヶ月間程度)を活用し、今後5年間累計で10名の大学院学生の海外留学を目指す。
5. 教育職員の海外留学・研修制度の整備推進
 - ・主に若手の教育職員の海外留学および海外研修(期間:1～2年間)の奨励・支援。

6. 海外の大学との協定締結推進
 - ・現在、海外の3大学と国際学术交流協定を締結。今後は欧米の大学も視野に入れ、5年後には10大学程度の大学と協定締結を目指す。
7. 英語版ホームページの整備推進
 - ・公開中の英語版ホームページを、さらに利用価値の高いものとするための取組。
8. 在籍する外国人留学生と日本人学生との積極的な相互交流推進
 - ・外国人留学生と日本人学生間での国際性に富んだ交流型イベントの企画・開催。
9. 地域活性化に向けた国際交流機会の推進
 - ・京菓祭を利用した地域住民・留学生交流会（仮称）を開催（年1回）。

事務局 国際交流推進室
室長代理 川勝 章広

「国際交流推進室」について

「国際交流推進室」では、国際交流センターに設置された国際交流推進委員会で決定された方針に従い、事務を執り行っています。

国際交流推進室の主幹業務には、日本人学部学生の短期海外留学サポートや、大学院に所属する現状10名の外国人留学生のサポートがあります。

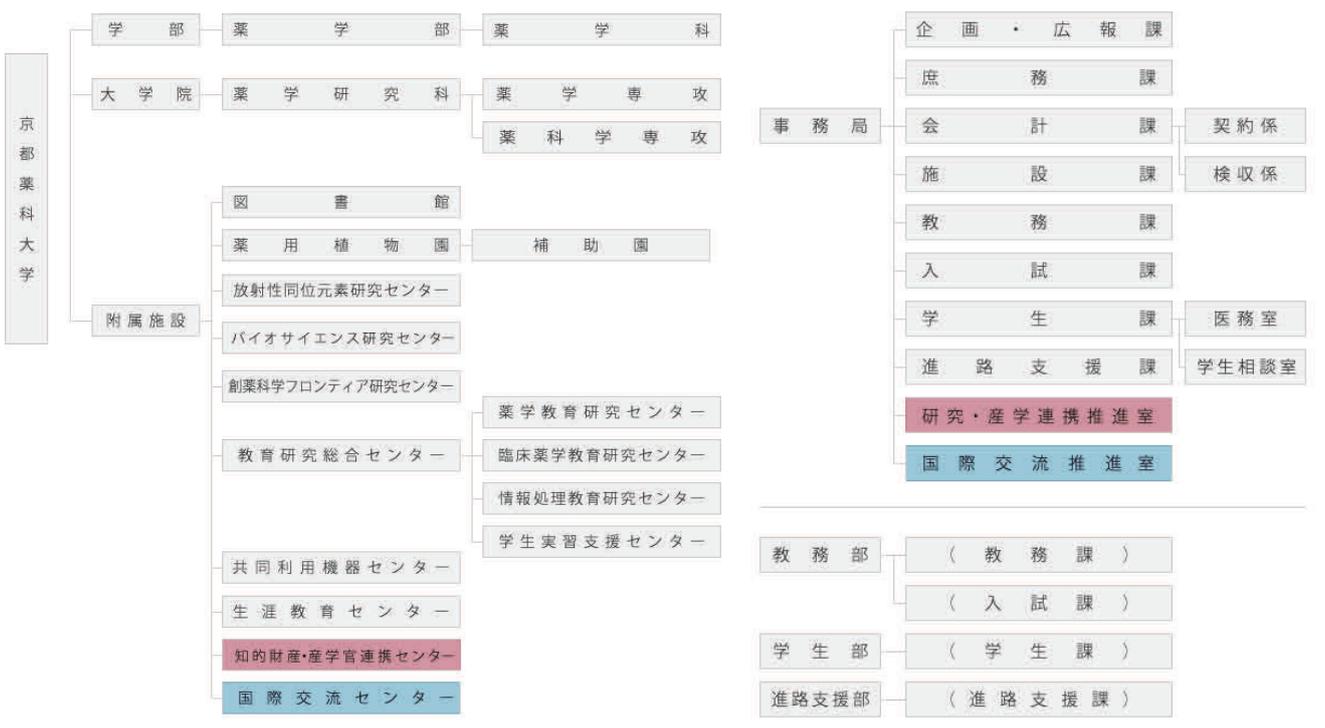
まず日本人学部学生の短期海外留学サポートについてですが、現在本学には唯一の留学プログラムと

してドイツのフライブルク大学でのサマープログラムがあります。このプログラムは約1か月間でドイツ語のレッスンおよびフライブルク大学薬学部の見学ができるものとなっております。2015年度以降は、このプログラムに加えて、新規でアメリカマサチューセッツ州への短期留学プログラムが現在検討されております。こちらのプログラムでは、英語のレッスンに加えて、アメリカの薬学部実務実習に参加したり、アメリカの最先端の病院薬剤部の見学ができるものとなる予定です。学部学生がグローバルな視点を養える良い機会となるようなプログラム作りをしていきたいと考えています。両プログラムともに、学生への経済的支援が予定されています。また、留学する学生が知っておくべき知識等を事前に「留学の手引」として整理・周知し、学生の皆さんには安全で楽しい、有意義な留学となるようサポートしていきたいと考えています。

次に大学院に所属する外国人留学生へのサポートとしては、留学生が所属する分野の教授に頼る部分が多く、大学としての留学生受入体制、サポート体制が必ずしも十分とは言えません。今後は多くの留学生を受入れるためのスキームを国際交流推進室が中心となって整理構築し、日本人学生・留学生の交流が進み、より国際的な大学となって関係者の満足度を高めることを目指していきます。

事務局 国際交流推進室
事務員 佐々木 雄太

組織図



卒業生からのメッセージ

地域の病院で働く



しんき

新喜 昌子

2002年 学部卒業
(公衆衛生学教室)

かみいち総合病院
(富山県上市町)
薬剤科 主任薬剤師

私は、本学に1998年に入学し1年間を女子学生寮で過ごしました。その女子寮も私たちが最後の寮生で、1999年に取り壊しになり現在は薬用植物園補助園ができたと聞いています。女子寮は田舎から出てきた私にとって多くの友人と出会えた場所で、今でも友人達とは仲良くさせてもらっています。卒業後は、京都に残る人、地元に戻った人、転勤で知らない土地に異動になった人、さまざまです。私はというと、地元の富山に戻り町立病院に勤務し12年が経ちます。

私の勤務するかみいち総合病院は、地域に密着した病床数219床の中規模自治体病院です。総合病院としてさまざまな診療科があり、各科の医師や看護師、その他コメディカルと連携を取りながら地域医療を行っています。薬剤師として病棟薬剤業務や薬剤管理指導業務をはじめ、回診への同行、NST（栄養サポートチーム）、糖尿病、緩和ケア、褥瘡（じょくそう）、感染対策など各種委員会にも参加しチーム医療を行っています。

私は、糖尿病療養指導士の資格をとり、糖尿病患者さんの指導に日々精進しています。糖尿病は一生付き合っていかなければならない病気です。合併症の予防、フットケアなどたくさんの知識を患者さんに知ってもらうために日々活動しています。糖尿病と診断され、突然インスリンを打つことになった患者さん、薬なんて飲みたくないと思っている患者さん、病気に対して不安に思っている患者さんが大勢います。そのような患者さんに医療者側が知っている知識をただ伝えるだけでは、相手の心に響きません。だから、私は患者さんに寄り添っていける薬剤師でありたいと思います。また、患者さんは高齢な方が多くその方に合わせた指導が必要になります。最先端で働く薬剤師も小さな病院や薬局で働く薬剤師も、目指すところは薬を通じて患者さんの不安を和らげ、笑顔を引き出すことだと私は思います。

これから就職活動や進路に迷うことがあると思います。薬剤師として、どこで、どのように患者さんに関わっていくか、自分に合った職場を見つけることはとても重要です。視野を広げているんな所を自分の目で見て聞いて、納得のいくまでやりつくしてみてください。学生時代に経験したことは、将来あなたの人生の糧となります。頑張ってください！

余談ですが、大学時代を共に過ごして来た仲間は一生の宝物です。そんな仲間との学生生活を思いっきり楽しんでください！

2015年度 大学院薬学専攻博士課程 (夏季募集)の入学選考結果

入試課

2015年度大学院薬学専攻博士課程(夏季募集)の入学選考を8月22日(金)に実施し、8月29日(金)に合格発表を行いました。

2015年度薬学専攻博士課程(夏季募集)の志願者は8名、合格者は8名でした。

○2015年度薬学専攻博士課程(夏季募集)の合格者数等

志願者数	8名
受験者数	8名
合格者数	8名

京都薬科大学 京薬論集刊行会主催 第12回「文化講演会」のお知らせ

日 時：11月3日(月・祝日) 14:00～16:00

会 場：京都薬科大学 本校地 躬行館3階Q31講義室

講演者：桑形 広司 氏
(京都薬科大学)

基礎科学系一般教育分野 准教授)

演 題：「医療関係者の名字から見た
ドイツ語圏の人名の特徴」

講演者：都染 直也 氏

(甲南大学 文学部日本語日本文学科 教授)

演 題：「ことばから見る「京阪神」
—新しいことばの誕生と広がり—」

今年で12回目の講演会となります。聴講無料です。当日は「京薬祭」も開催中ですので、あわせてお楽しみください。

第6回 学生満足度調査 集計結果

学生満足度調査プロジェクトチーム

本学では2009年度から、2～6年次生までを対象とした「学生満足度調査」を実施しています。2014年度の調査では394名の学生の皆さんに調査にご協力いただきました。勉強やクラブ活動が忙しい中、アンケートにご協力いただきありがとうございます。

学生の皆さんから寄せられた声は本学の全職員で共有し、今後の教育・研究等の改善に役立てていきたいと考えています。今後も皆さんの声をお寄せ下さい。

なお、全学的な取組として改善が必要な項目につきましては、大学の第2期中期計画に盛り込み、改善に取り組みます。改善結果については追って報告いたします。

＜学生満足度調査の実施概要について＞

- (1) 実施対象について
学部2～6年次生
- (2) 記名・無記名について
無記名方式
- (3) アンケート配付期間について
2014年3月24日（月）～4月11日（金）の各学年
関連ガイダンス時に配付
- (4) アンケート回収期間について
2014年4月25日（金）まで
- (5) 回収数
394部

＜学生満足度調査結果＞

(1) はじめに

①性別

No	回 答	2014年度		2013年度		2012年度	
		回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
1	男性	81	20.6%	130	22.9%	192	27.6%
2	女性	310	78.7%	431	75.9%	500	71.8%
	無回答	3	0.8%	7	1.2%	4	0.6%
	計	394	100.0%	568	100.0%	696	100.0%

②学年

No	回 答	2014年度		2013年度		2012年度	
		回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
1	2年次	102	25.9%	172	30.3%	203	29.2%
2	3年次	84	21.3%	116	20.4%	170	24.4%
3	4年次	84	21.3%	119	21.0%	133	19.1%
4	5年次	79	20.1%	83	14.6%	91	13.1%
5	6年次	42	10.7%	69	12.1%	95	13.6%
	無回答	3	0.8%	9	1.6%	4	0.6%
	計	394	100.0%	568	100.0%	696	100.0%

(2) 京都薬科大学の魅力（※複数回答可）

No	回 答	2014年度		2013年度		2012年度	
		回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
1	伝統があり、多くの卒業生を輩出している	253	27.4%	350	26.9%	425	27.4%
2	学力水準が高く、知名度が高い	143	15.5%	154	11.9%	211	13.6%
3	高い研究力	36	3.9%	76	5.9%	95	6.1%
4	最先端の薬学教育を受けることができる	33	3.6%	41	3.2%	51	3.3%
5	施設や設備が充実している	106	11.5%	140	10.8%	163	10.5%
6	高い就職率	143	15.5%	190	14.6%	119	7.7%
7	立地条件が良い	103	11.2%	177	13.6%	237	15.3%
8	京都の街	87	9.4%	142	10.9%	211	13.6%
9	その他（下記自由記述欄に記入して下さい）	7	0.8%	10	0.8%	15	1.0%
	無回答	11	1.2%	19	1.5%	26	1.7%
	計	922	100.0%	1299	100.0%	1553	100.0%

(3) 京都薬科大学の教育・研究 (Q5-10～Q5-13は4年次生以上への質問項目)

No	質問内容	4.とても当てはまる	3.まあ当てはまる	2.あまり当てはまらない	1.当てはまらない	無回答	計	2014年度平均点	2013年度平均点	2012年度平均点
Q5-1	シラバスには必要な情報が十分盛り込まれている	72	300	10	2	10	394	3.2	3.1	3.0
Q5-2	教養科目(人と文化)は充実している	36	264	69	13	12	394	2.8	2.7	2.4
Q5-3	基礎演習の内容は充実している	60	294	23	7	10	394	3.1	2.9	-
Q5-4	早期体験学習のプログラムは充実している	78	267	33	6	10	394	3.1	3.0	2.7
Q5-5	英語科目には満足している	30	228	100	27	9	394	2.7	2.4	-
Q5-6	選択外国語科目には満足している	52	255	61	17	9	394	2.9	2.6	-
Q5-7	補講等、授業以外の学習支援体制には満足している	62	279	40	4	9	394	3.0	2.9	-
Q5-8	専門科目には満足している	85	281	18	1	9	394	3.2	3.1	2.9
Q5-9	専門科目実習には満足している	80	277	21	2	14	394	3.1	3.1	2.9
Q5-10	総合薬学研究・演習の分野選択に関する情報・期間は足りていた	24	120	38	7	16	205	2.9	2.8	-
Q5-11	総合薬学研究・演習を通して専門性を深められていると感じる	56	112	18	4	15	205	3.2	3.2	3.0
Q5-12	総合薬学研究・演習の定員は適切である	35	109	35	9	17	205	2.9	2.9	2.8
Q5-13	病院・薬局実習には満足している	31	84	12	3	75	205	3.1	3.0	-

(4) 京都薬科大学の学生サポート

No	質問内容	4.とても当てはまる	3.まあ当てはまる	2.あまり当てはまらない	1.当てはまらない	無回答	計	2014年度平均点	2013年度平均点	2012年度平均点
Q7-1	学生に対する各窓口での対応は親切・丁寧に行われている	124	234	15	9	12	394	3.2	3.3	3.2
Q7-2	クラブ活動に対して十分な資金援助が行われている	29	223	84	31	27	394	2.7	2.8	2.6
Q7-3	クラブ活動を行うのに十分な設備が整っている	44	201	91	33	25	394	2.7	2.8	2.6
Q7-4	奨学金制度は充実している	43	262	50	13	26	394	2.9	2.8	2.7
Q7-5	困ったとき、悩んだときは学生相談員に相談したい	43	179	105	52	15	394	2.6	2.4	2.2
Q7-6	困ったとき、悩んだときは精神科医・臨床心理士に相談したい	23	148	148	59	16	394	2.4	2.3	2.1
Q7-7	各種証明書の発行日数には満足している	66	264	37	8	19	394	3.0	2.8	2.7
Q7-8	授業に関すること、呼出し等、必要な情報の提供を問題なく受けている	43	267	49	23	12	394	2.9	2.8	-

(5) 京都薬科大学の施設・設備

No	質問内容	4.とても当てはまる	3.まあ当てはまる	2.あまり当てはまらない	1.当てはまらない	無回答	計	2014年度平均点	2013年度平均点	2012年度平均点
Q9-1-A	施設・設備が充実している 講義室(プロジェクター、スクリーン、モニター等含む)	113	227	33	3	18	394	3.2	3.2	3.1
Q9-1-B	施設・設備が充実している 実習室(プロジェクター、スクリーン、モニター等含む)	101	255	20	2	16	394	3.2	3.2	3.1
Q9-1-C	施設・設備が充実している 自習室	75	229	63	10	17	394	3.0	2.8	2.8
Q9-1-D	施設・設備が充実している 駐輪場	63	261	25	12	33	394	3.0	3.0	2.9
Q9-1-E	施設・設備が充実している ロッカー室	59	246	52	18	19	394	2.9	2.8	2.7
Q9-1-F	施設・設備が充実している 掲示板	66	251	45	14	18	394	3.0	2.9	2.8
Q9-1-G	施設・設備が充実している 情報設備(パソコン、インターネット)	96	237	37	5	19	394	3.1	3.1	3.0
Q9-2	研究室では安心して実験・実習に取り組める環境が整備されている	84	209	35	12	54	394	3.1	3.1	-
Q9-3-1-A	食堂施設が充実している(愛学館—メニュー)	67	217	73	21	16	394	2.9	2.8	2.7
Q9-3-1-B	食堂施設が充実している(愛学館—価格)	51	223	84	20	16	394	2.8	2.8	2.6
Q9-3-1-C	食堂施設が充実している(愛学館—利用環境)	29	151	144	53	17	394	2.4	2.3	2.1
Q9-3-2-A	食堂施設が充実している(躬行館—メニュー)	38	196	106	35	19	394	2.6	2.6	2.4
Q9-3-2-B	食堂施設が充実している(躬行館—価格)	34	211	108	24	17	394	2.7	2.6	2.4
Q9-3-2-C	食堂施設が充実している(躬行館—利用環境)	29	174	128	46	17	394	2.5	2.4	2.1
Q9-4	図書館施設が充実している(蔵書数、カウンターサービス含む)	90	236	49	5	14	394	3.1	3.0	2.9
Q9-5	文具・書籍売場が充実している(品揃え、価格含む)	73	230	66	9	16	394	3.0	2.9	2.7
Q9-6	憩いのスペースが充実している	51	205	98	21	19	394	2.8	2.7	2.6
Q9-7-A	安全・衛生管理が行き届いている セキュリティー	95	241	30	9	19	394	3.1	3.1	3.1
Q9-7-B	安全・衛生管理が行き届いている 構内の交通安全	107	248	17	3	19	394	3.2	3.2	3.1
Q9-7-C	安全・衛生管理が行き届いている 清掃	152	212	10	1	19	394	3.4	3.4	3.4

(6) 京都薬科大学の進路支援 (Q11-7-A～Q11-8は6年次生への質問項目)

No	質問内容	4.とても当てはまる	3.まあ当てはまる	2.あまり当てはまらない	1.当てはまらない	無回答	計	2014年度平均点	2013年度平均点	2012年度平均点
Q11-1	進路支援課へ進路に関する相談や質問をしたことがある	37	91	55	186	25	394	1.9	1.8	1.6
Q11-2	進路支援課隣接の資料室を利用したことがある	31	75	68	195	25	394	1.8	1.8	1.6
Q11-3	進路ガイダンス・セミナーの内容はわかりやすい	37	221	83	23	30	394	2.7	2.7	2.6
Q11-4	進路ガイダンスの実施時期・回数は適当である	34	248	57	22	33	394	2.8	2.7	2.6
Q11-5	学内公募型インターンシップ制度が充実している	22	202	100	20	50	394	2.7	2.5	-
Q11-6	学内合同企業説明会(企業・病院・薬局・公務員)が充実している	47	222	61	17	47	394	2.9	2.8	-
Q11-7-A	進路支援サービスが充実している(エントリーシート・履歴書等の添削)	19	13	1	0	9	42	3.5	3.4	-
Q11-7-B	進路支援サービスが充実している(模擬面接・グループディスカッション対策)	18	13	2	0	9	42	3.5	3.2	-
Q11-7-C	進路支援サービスが充実している(求人情報の提供)	13	17	4	0	8	42	3.3	3.2	-
Q11-7-D	進路支援サービスが充実している(企業・病院・薬局等の情報提供)	12	18	3	0	9	42	3.3	3.1	-
Q11-7-E	進路支援サービスが充実している(その他相談に対する対応)	16	15	2	0	9	42	3.4	3.3	-
Q11-8	5年次3期実務実習中(1月～3月)の進路支援体制が充実している	12	12	9	0	9	42	3.1	3.1	-

(7) 総合評価

No	回答	2014年度		2013年度		2012年度	
		回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
1	1. まったく満足していない	2	0.5%	4	0.7%	5	0.7%
2	2	7	1.8%	3	0.5%	15	2.2%
3	3	11	2.8%	22	3.9%	32	4.6%
4	4	10	2.5%	18	3.2%	26	3.7%
5	5. どちらとも言えない	29	7.4%	58	10.2%	94	13.5%
6	6	56	14.2%	90	15.8%	109	15.7%
7	7	107	27.2%	153	26.9%	165	23.7%
8	8	132	33.5%	150	26.4%	148	21.3%
9	9	27	6.9%	35	6.2%	32	4.6%
10	10. 非常に満足している	8	2.0%	5	0.9%	9	1.3%
	無回答	5	1.3%	30	5.3%	61	8.8%
	計	394	100.0%	568	100.0%	696	100.0%
	平均点	6.9		6.7		6.4	

平均点 : 6.9

※2013年度調査時の平均点は6.7点
2012年度調査時の平均点は6.4点

2014年度 大学説明会の学外開催の報告

入試課

今年度で5年目を迎える学外での大学説明会を、8月23日(土)及び8月30日(土)に開催しました。8月23日(土)は福岡会場(JR博多シティ会議室)・香川会場(サンポートホール高松)、8月30日(土)は広島会場(RCC文化センター)・愛知会場(愛知県産業労働センター)の4会場で開催しました。

大学説明会では、大学紹介・研究紹介(15:00～16:00)および相談会(16:00～17:00)を行いました。昨年に引き続き参加された方や、本学のオープン

キャンパスに参加し、さらに今回の大学説明会に参加された方もおられ、本学に対する関心の高さがうかがえました。参加者からは「色々と深く話が聞けて参考になりました」「具体的に説明してもらい、本当に来て良かった」との声をいただきました。

今後も少人数ならではの一人ひとりの顔が見えるきめ細やかな説明会を心掛けていきたいと思っておりますので、皆様方のご協力をお願いいたします。

日程	開催地(都道府県)	高校1年生	高校2年生	高校3年生	既卒生	付添者	合計
8月23日(土)	福岡(福岡県)	0名	0名	1名	0名	5名	6名
8月23日(土)	高松(香川県)	0名	0名	0名	1名	3名	4名
8月30日(土)	広島(広島県)	0名	0名	2名	1名	5名	8名
8月30日(土)	名古屋(愛知県)	0名	0名	0名	0名	3名	3名
合計		0名	0名	3名	2名	16名	21名



福岡会場



広島会場

2014年度 6月、8月のオープンキャンパス開催

入試課

～ 6月のオープンキャンパス ～

6月8日（日）にオープンキャンパスを開催しました。受験生、付添者を合わせて351名（前年比：100.6%）の参加者がありました。躬行館T31講義室を会場とし、「学長挨拶」、「大学紹介」、「在学生の話」、「卒業生の話」の後、「施設見学」、「相談会」を実施しました。

「学長挨拶」では、乾学長から「輝ける薬学の近未来」というテーマで、本学が目指すファーマシスト・サイエンティストの育成について話がありました。「大学紹介」では、安井入試広報委員長が、本学の説明を行いました。

「在学生の話」では、6年次生浅井千秋さんから研究室、病院・薬局実習、アルバイト等の体験に基づいた大学生活全般の話がありました。「卒業生の話」では、京都第二赤十字病院に勤務されている堀西祐多様に本学で学んだことが社会に出てどう活かされているか等について話をいただきました。「在学生の話」、「卒業生の話」とともにたいへん好評をいただきました。

「施設見学」では、愛学館の分野、図書館および臨床薬学教育研究センターの見学を行いました。また、6月のオープンキャンパスからキャンパス内の自由見学を実施し、案内マップを手に学内を見学される参加者が多数見られました。躬行館食堂で実施した「相談会」には、121名の相談者があり、入学試験や学生生活、奨学金や就職などの相談を受けました。

～ 8月のオープンキャンパス ～

8月2日（土）・3日（日）の2日間、オープンキャンパスを開催しました。両日とも一時雨が降る不安定な天気の中での開催となりましたが、1,670名（前年比：109.2%）の参加者がありました。薬学6年制開始以降最高の人数となり、躬行館T31・Q31講義室の2会場で「学長挨拶」、「大学紹介」、「在学生の話」を実施し、その後、「体験実習」、「施設見学」、「相談会」を行いました。「在学生の話」として、廣田直輝さん・筒井孝治さん(8/2)、山田麻理さん・米川結実子さん(8/3)（共に6年次生）の4人から大学生活について話がありました。参加者からは「研究や生活面について学生の視点から具体的に話を聞けて良かった」などの声が多く聞かれました。

また、大学紹介について「大学の方針や理念がよく分かった」、体験実習については「貴重な体験ができて良かった」、施設見学については「施設がとても充実していた」など、多くの声が寄せられました。

相談会は、躬行館食堂で実施し、両日合計405名の相談者があり、教育職員、事務職員、在学生が相談に応じました。

今後も、より一層充実したオープンキャンパスにしたいと思います。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



学長挨拶



施設見学



大学紹介



相談会

2014年度 8月のオープンキャンパスアンケート集計結果

Q1 オープンキャンパスを何で知りましたか？（複数回答）

No.	回答	件数	(全体)%
1	インターネット（本学のホームページ）	363	67.0
2	高校の進路指導または資料	105	19.4
3	家族または親戚	63	11.6
4	先輩・友人・知人	58	10.7
5	オープンキャンパスのチラシ・DM	53	9.8
6	予備校	10	1.8
7	その他	5	0.9
8	新聞	3	0.6
9	受験雑誌など	2	0.4
10	無回答	1	0.2

Q2 オープンキャンパスに参加された目的や動機は何ですか？（複数回答）

No.	回答	件数	(全体)%
1	キャンパス・校舎・食堂など施設・設備の確認	422	77.9
2	実験・研究などの施設・設備の確認	273	50.4
3	入試情報の確認	234	43.2
4	キャンパス周辺の街並みや環境の確認	162	29.9
5	就職状況や進路指導の確認	133	24.5
6	薬剤師国家試験対策についての確認	127	23.4
7	大学の教育理念・方針、将来構想の確認	126	23.2
8	授業内容の確認	123	22.7
9	研究内容の確認	116	21.4
10	薬学6年制の確認	112	20.7
11	クラブ・サークル活動などの確認	89	16.4
12	学費・奨学金・アルバイトなどの確認	82	15.1
13	病院・保険薬局実務実習の確認	60	11.1
14	在学生の確認やコミュニケーション	46	8.5
15	学生相談・サポート体制の確認	29	5.4
16	教育職員及び事務職員の確認や相談	18	3.3
17	その他	7	1.3
18	無回答	6	1.1

Q3 本学を受験する場合、どの方式で受験されますか？（複数回答）

No.	回答	件数	(全体)%
1	B方式（本学独自）	213	39.3
2	検討中	212	39.1
3	推薦入試	199	36.7
4	A方式（センター前期）	111	20.5
5	C方式（センター後期）	22	4.1
6	無回答	15	2.8

Q4 オープンキャンパスに参加されての感想はいかがでしたか？（全体）

No.	回答	件数	(全体)%
1	とても良かった	343	63.3
2	まあ良かった	137	25.3
3	あまり良くなかった	2	0.4
4	全く良くなかった	0	0.0
5	無回答	60	11.0
合計		542	100.0

Q5 オープンキャンパスに参加されて、京都薬科大学の印象や評価は変わりましたか？

No.	回答	件数	(全体)%
1	かなり受験意欲が高まった	262	48.3
2	少し受験意欲が高まった	236	43.5
3	変わらなかった	29	5.4
4	少し受験意欲が減退した	2	0.4
5	かなり受験意欲が減退した	1	0.2
6	無回答	12	2.2
合計		542	100.0

※有効回答アンケート数：542

※対象：受験生・高校生

2014年度 6月、8月のオープンキャンパス参加人数

2014年6月のオープンキャンパス

	受験生	付添者	合計
6月8日（日）	189名	162名	351名
昨年度	207名	142名	349名

2014年8月のオープンキャンパス

	受験生	付添者	合計	昨年度
8月2日（土）午前	402名	212名	614名	427名
午後	115名	88名	203名	250名
小計	517名	300名	817名	677名
8月3日（日）午前	226名	186名	412名	587名
午後	241名	200名	441名	266名
小計	467名	386名	853名	853名
合計	984名	686名	1,670名	1,530名
昨年度	957名	573名	1,530名	

第99回 薬剤師国家試験の結果について

薬学教育研究センター 教授 細井 信造

6年制薬学の3回目（第99回）の薬剤師国家試験が2014年（平成26年）3月1・2日に実施されました。前回（第98回）に比べてさらに難化しています。一つ一つの事項について深く問われるだけではなく、思考力や応用力が求められています。つまり、単なる暗記ではなく考える力を試す試験へと進化しています。具体的には、実験データに基づいて考えさせる

問題や医療現場での実践的な問題、さらには新傾向の問題が数多く（約25%）出題され、最近の時事からもタイムリーに出題されています。このように、6年制薬剤師国家試験は、医療に軸足を置いた、実践力および問題解決能力が期待される6年制薬学部を卒業した薬剤師にふさわしい内容に変わりつつあると言えます。

表1. 国・公・私立別合格率

①男女別合格率

区分	総数	男		女	
出願者	14,039名	6,057名	43.14%	7,982名	56.86%
受験者	12,019名	5,052名	42.03%	6,967名	57.97%
合格者	7,312名	3,060名	41.85%	4,252名	58.15%
合格率	60.84%	60.57%		61.03%	

②受験区分別合格率

区分	総数	男		女	
		受験者	合格率	受験者	合格率
6年制 新卒	受験者	8,822名	40.51%	5,248名	59.49%
	合格者	6,219名	41.44%	3,642名	58.56%
	合格率	70.49%	72.10%	69.40%	
6年制 既卒	受験者	2,517名	42.15%	1,456名	57.85%
	合格者	1,003名	43.57%	566名	56.43%
	合格率	39.85%	41.19%	38.87%	
その他	受験者	680名	61.32%	263名	38.68%
	合格者	90名	51.11%	44名	48.89%
	合格率	13.24%	11.03%	16.73%	

③国・公・私立別合格率

区分	総数			6年制新卒			6年制既卒			その他		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
国立	639名	447名	69.95%	481名	400名	83.16%	46名	16名	34.78%	112名	31名	27.68%
公立	255名	181名	70.98%	202名	161名	79.70%	20名	7名	35.00%	33名	13名	39.39%
私立	11,125名	6,684名	60.08%	8,139名	5,658名	69.52%	2,451名	980名	39.98%	535名	46名	8.60%
本学	343名	280名	81.63%	325名	273名	84.00%	9名	6名	66.67%	9名	1名	11.11%

さて、この試験では、国公私併せて73大学の学生が受験し、受験者総数12,019名中、合格者は7,312名（合格率60.84%）でした。前回は79.10%でしたので、約18%合格率が低下したことになります。その要因として次のことが考えられています。1)「物理・化学・生物」の必須問題の難易度が高かった、2)新薬や一般的でない医薬品に関する問題が全般的に出題された、3)適応外や添付文書・教科書に記載されていないレベルの知識を問う問題が出題された。6年制新卒の全国合格率は70.49%でした。また、6年制既卒者の合格率は39.85%と低いものとなっています。つまり、4年制卒業生は言うまでもなく、6年制既卒者ですら国家試験に合格することは一層厳しくなると言えます。本学では、新卒者325名が受験し、合格者は273名（合格率84.00%）、既卒者は4年制、6年制併せて18名が受験し、合格者は7名（合格率38.89%）で、総合合格率は81.63%（全国総計60.84%）でした。

第99回薬剤師国家試験では、難易度は上昇し、合格率は低下するであろうと予想されていましたが、まさにその通りの結果となりました。その中でも、本学が全国総合5位であった要因として、1)夏期講習

および薬学特別演習の出席率が非常に良かった、つまり真剣に勉強に取り組んでいた、2)薬学特別演習の講義スケジュールが基礎系科目から実務まで効率よく学習できるように組まれていた、3)指定学生は講義後、さらにその日に学んだ内容に関する演習問題に主体的に取り組んだ、4)学生に関する情報（出席状況、指定学生の課題取り組み状況、模擬試験の成績等）を、当センターと分野間で共有できていた、5)当センターで質問対応や補講を行うなどして学習フォローアップを行ったことなどが考えられます。

次に、今春卒業した本学学生の学業成績（専門必修講義科目の評定平均）と国試合否との関係を調べてみました。表2に示しますように、昨年度まで（評定平均75点以上の卒業生は全員合格）とは異なり、評定平均85点以上の卒業生は全員合格していますし、評定平均と卒業・合格率との間に明確な相関が見てとれます。このことは、日頃の学習が如何に大切かを物語っています。つまり、日々の勉学を怠らないことは必須のことですが、学業成績（評定平均）が芳しくない学生が国試合格を目指すには、早期からの準備と一層の努力が必要と言えます。

表2. 評定平均*と合否との関係

評定平均	学生数	卒業生数	合格者	卒業・合格率 (%)	不合格者
95点以上	0	0	0		0
90点以上95点未満	3	3	3	100	0
85点以上90点未満	25	25	25	100	0
80点以上85点未満	44	44	43	97.7	1
75点以上80点未満	75	74	70	93.3	4
70点以上75点未満	121	118	92	76	26
65点以上70点未満	68	58	38	55.9	20
60点以上65点未満	8	3	2	25	1

* 専門必修講義科目の平均点

6年制薬学部の3期生に対しても、昨年度と同様に今後の教育および国家試験対策に活用する目的で、国家試験の解答データの協力を要請したところ、325名の受験者中250名（入力率76.9%）の協力がありました。表3に示しますように、総合正答率は72.9%（2期生77.6%）と昨年度に比べて約5%低下していますがこれは問題の難易度が上昇したためと推察し

ています。平均正答率30%未満の問題が、必須問題で2題（昨年度2題）、薬学理論問題で11題（昨年度8題）、薬学実践問題で13題（8題）あり、昨年度に比べて増加しています。特に、物理・化学・生物は、必須問題および一般問題で他の科目に比べて正答率が低かったことから、難易度が他の科目に比べて高かったと言えます。

表3. 科目別・問題区分別平均正答率

問題区分	必須問題								合計	平均正答率	学内全体（新卒）	全国（新卒）
	科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務				
問題数	15	10	15	15	15	10	10	90				
最低点	7	5	10	10	5	6	5	65				
平均点	11.1	8.9	13.3	13.4	13.1	8.8	7.6	76.3		84.1%	82.5%	
最高点	15	10	15	15	15	10	10	87				
平均正答率	74.3%	88.8%	88.9%	89.5%	87.0%	88.0%	76.0%	84.7%				

問題区分	理論問題							合計	平均正答率	学内全体（新卒）	全国（新卒）
	科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理				
問題数	30	20	15	15	15	10	105				
最低点	9	7	3	6	5	3	46				
平均点	17.5	12.6	6.8	12.2	10.9	8.7	68.8		64.0%	59.4%	
最高点	27	17	10	15	15	14	92				
平均正答率	58.4%	63.0%	68.1%	81.5%	72.5%	58.3%	65.5%				

問題区分	実践問題								合計	総合計
	科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務		
問題数	15	10	10	10	10	10	85	150	345	
最低点	3	1	3	3	3	4	45	74	201	
平均点	8.4	6.6	8.1	7.2	7.1	6.8	62.2	106.4	251.4	
最高点	13	10	10	10	10	10	78	133	306	
平均正答率	56.3%	66.1%	81.2%	71.8%	71.3%	67.5%	73.1%	70.9%	72.9%	
学内全体（新卒）								69.8%	71.8%	
全国（新卒）								67.5%	69.0%	

<第100回薬剤師国家試験に向けて>

今回の国家試験は記念すべき第100回ということもあり、問題の難易度はさらに上昇するのではと予想しています。何れにせよ、6年制薬学にふさわしい、より実践的な内容が出題されるでしょう。さらに、最新の医療や話題が出題されていることから、常にそれらに関する情報を収集する努力をすることも重要となってきています。まずは国家試験の合格基準を確認し、苦手あるいは弱点と考えられる科目から始めて苦手意識を払拭することが重要です。第99回国家試験では、物理・化学・生物の必須問題で、ボーダーラインに引っ掛かって不合格となった卒業生が少なからずいました。基礎系科目、すなわち物理、化学、生物は他の科目の基礎となりますが、定着するには時間がかかるため、反復学習が重要となります。是非とも苦手意識を払拭し、弱点を克服し

てください。6年制薬剤師国家試験では内容が偏ることなく出題されますので、重要項目を中心に広く深く（理解しながら）勉強することが大切です。仮に過去問が出題されることがあっても、そのままの形で出題されることはなくなってきています。とはいっても過去問を無視することはできませんし、過去問のみでは合格できません。1期生から3期生の先輩の合格率の高さは一生懸命に勉強した結果です。先輩に続いて良い結果となることを切に願っています。今、成績がよくないと感じている学生は、早い段階から国試合格に向けた準備と努力が必要です。努力は決して皆さんを裏切りません。当センターでは皆さんの学習面でのサポート（学びコンシェルジュなど）をしておりますので是非ご利用下さい。

サマープログラム（医薬品開発研修）が開催されました

教務課

昨年に引き続き、パレクセル・インターナショナル株式会社と共同で「医薬品開発のためのサマープログラム」を開催しました。

2年目となる今年度は8月4日から8日、18日から22日の合計10日間、受講生は5年次生を中心とした12名となりました。講師は昨年も来ていただいたパレクセル社のDagmar Peitsch先生とJulia Chao先生に担当いただきました。

プログラム初日は、さすがに講師の話すスピードや専門用語に戸惑ったようですが、グループワーク

で助け合いながら理解を深め、英語に関しても日を重ねるごとに耳が慣れていき、積極的に発言や質問をするように変化していました。

また、講師がそれぞれドイツと台湾の方々で、異文化交流も進んだようです。

最終日の試験を経て、12名全員にCertificate（修了証書）が授与されました。

受講生の感想文を読んで、来年度も多くの方に参加してほしいと思います。



Dagmar Peitsch 先生



Julia Chao 先生

あやね

5年次生 上田 文音

私は治験に興味があったことと、実際にCRAはどのような業務を行っているのか知りたかったため、このサマープログラムに参加しました。私は実のところ英語が流暢に話せられるわけではなく、TOEICの点数が高いというわけでもなかったため、この授業にしっかりついていけるのかサマープログラムが始まるまで本当に心配でした。しかし、いざ始まると英語が不安であるからこそ、しっかり集中して聞くことができたし、わからない単語や内容があっても休み時間に他の子や先生、OB・OGの方に聞いて確実に理解することができました。

授業も大学の講義のように先生が一方的に話すのではなくみんなで考えて発表する時間も多かったり、その中で笑いが起こったりと、とても楽しくCRAはもちろん他の治験に携わるスタッフの業務・責任を学ぶことができました。

CRAの責務に関しては特に実際のCRAの業務であるモニター業務を体験させて頂いた時にモニター業務は1つでも誤りを見落とすと被験者や治験そのものに

影響がでてくるため、注意を念入りに払って行わなければならないと実感しました。

授業だけでなく実際にOB・OGの方に治験に関する情報や業務のことも2週間あったこともあって十分に聞くことができ、このサマープログラムでの収穫は大きいものとなりました。

英語ができなくても「治験やCRA業務について知りたい！」という意欲があればサマープログラムを受けられる価値があると思います。そしてインターンシップよりも治験・CRA業務について知ること、達成感を得ることができたのではないかと思う程、満足な授業内容です。

最後になりましたが、今回サマープログラムの開催・運営にあたってくださった乾学長を始めとする後藤先生、近藤さん、大学職員の方々、Dagmar先生、Julia先生、PALEXELの方々にはこのような機会を与えてくださって本当に感謝しています。ありがとうございました。

5年次生 石野 良

サマープログラムの話を初めて聞いたときは、10日間もあると聞いてすぐに参加しようとは思いませんでした。その時点で将来の進路をまだ考えていなかったし、なにより自分の英語力に自信がなかったからです。6月からインターンシップの申し込みが始まり、将来の進路を考えだしたときに企業に行くなら英語を必要とされることが多いと気づき、インターンシップの代わりのような形でサマープログラムに参加することを決めました。

いざサマープログラムが始まってみれば、分厚いテキストとドイツから来たDagmar先生の英語の速さに戸惑いました。初めは質問されている内容がちゃんと理解できなくて答えることもできないし、すぐに英語で言うことができませんでした。先生の言っていることがなかなか理解できず、授業の進行が止まることもときどきありました。

そんなときはパレクセルの社員さんが補足で説明してくださってすごく助かりました。

また1日に3回ほどグループディスカッションをし

て、大きなポスターにまとめる作業をする時に、グループ内で話し合うことで自分がよくわからなかった内容を理解することができました。グループディスカッション中でも先生やパレクセルの社員さんにも気軽に質問もできてすごく困るようなことはありませんでした。

講義を受けることにより、医薬品開発の業務に携わるにはたくさんの知識や英語力、コミュニケーション能力が必要だと知ることができました。参加してみてよかったです。またプレゼンテーション能力も少し上達したように感じます。

またパレクセルの社員さんや社長さんともお話できて普段ではなかなか聞けないことまで聞いたのでよかったです。僕は自分の英語力に自信がない人こそ参加してみるといいと思います。おそらく初日は軽い挫折を味わうと思いますが、10日目になると耳も慣れて先生の言葉がおおよそ理解できるようになっていました。メンバーにも恵まれて有意義な時間を過ごせました。



5年次生 進藤 万莉

私がサマープログラムに参加しようと思ったきっかけは大きく2つあります。

まず、1つ目は9月から始まる病院の実習に向けてコミュニケーション能力を強化したかったからです。研究室の長期実務実習発表会で先輩が、患者さんに服薬指導をする時やカンファレンスに参加する時など、チーム医療の一員として患者さんに最善の医療を提供するために、薬剤師にはコミュニケーション能力が必要であるとおっしゃっていたからです。

そして、2つ目は英語力を強化しようと思ったからです。大学での英語の講義が3年次生までしかなく2年間のブランク、特にリスニング力が不安でした。また、6年次生の研究室の卒論発表会を英語でやらなければならないので、英語をしっかりと対策していこうと思いました。

サマープログラムの初日は講師の先生方が話しているスピードが速くて講義についていくのに苦労しましたが、日が経つごとに自然と英語を聞くのに慣

れてきました。国際共同治験の事に関してグループごとにディスカッションしていきポスター発表する事で理解するための手助けになりました。私は今まで自分の意見を言えず受け身の立場でしたが、この機会を通じて相手の意見に耳を傾けつつ自分の意見も積極的に言えるようになりました。また、テキストのシナリオや配布されたプリントを使用して国際共同治験でのトラブルが起こらないようにするための対処法も話し合い、皆で助け合いながら問題を解決していく事の大切さを学びました。CRAとして活躍されているOB・OGさんの話も聞く事ができ、治験の仕事に関する情報収集に役立ちました。

私は10日間のサマープログラムを通して、自分の英語力を痛感したので英語を更に頑張っていこうと思いました。また、OB・OGさんも「受け身ではなく、自分で積極的に動く事は大切である」とおっしゃっていたので、実務実習や将来就職した時には、もっと自分に自信を持って行動できるようにしたいです。

※ CRA : Clinical Research Associate

2014年度 総合薬学研究・総合薬学演習 卒業論文発表会

教務課

2014年6月24日（火）・25日（水）の2日間にわたり、6年次生の卒業論文発表会を臨床薬学教育研究センターにて開催しました。

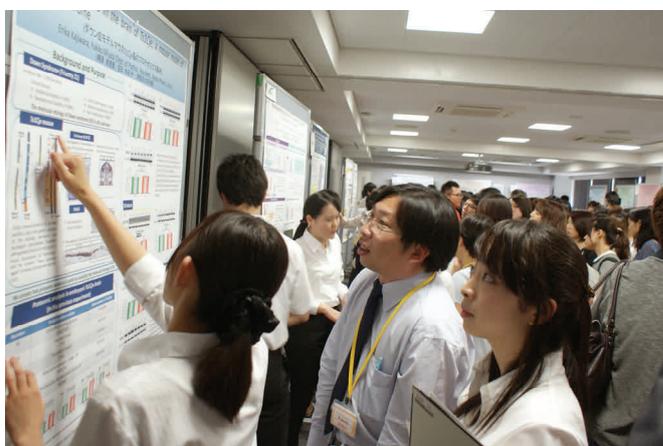
グローバル人材育成の1つとして、昨年度から英語でのポスター作成・発表・質疑応答にチャレンジしています。

発表会には、海外学術交流協定を締結している瀋陽薬科大学（中国）およびマヒドール大学（タイ）から4名の先生をお招きしました。招待者と本学の学生との間での活発な質疑応答が交わされ、本学学生の秘めたコンピテンスの高さが示された卒業論文発表会となりました。また、大学院生、外国人留学生も多数参加し、後輩達の発表を盛り上げてくれました。

発表会では、ポスター発表で活発な質疑応答を行った学生約60名に、発表会終了後に開催する“The Get-together Party”への招待状が海外招待者から渡され、パーティーで親交を深めることとなりました。



マヒドール大学の先生から質疑応答を受ける学生



マヒドール大学の先生に説明を行う学生

《スケジュール》

	時間	系	分野
6月24日	第1部 13:30～14:10 14:10～14:50	病態薬科学	病態生化学、薬物治療学、臨床薬理学、薬理学、臨床腫瘍学
	第2部 15:10～15:50 15:50～16:30	医療薬科学	薬剤学、薬物動態学、臨床薬学
		基礎科学	健康科学、物理学、薬学英语
	第3部 16:50～17:30 17:30～18:10	創薬科学	薬化学、薬品製造学、薬品化学、生薬学
6月25日	第1部 13:30～14:10 14:10～14:50	分析薬科学	薬品分析学、代謝分析学、薬品物理化学
	第2部 15:10～15:50 15:50～16:30	生命薬科学	衛生化学、公衆衛生学、微生物・感染制御学、生化学、病態生理学

※全て40分交代とする

第9回 保健・医療・福祉系学生交流合同セミナー

教務課

本学から4名の学生が、夏季休暇を利用して8月6日（水）に慶應義塾大学薬学部芝共立キャンパスで開催された保健・医療・福祉系学生交流合同セミナーに参加しました。他大学他学部学生と、『私たちに求められるコミュニケーションとは』について一緒に考え・意見交換をしながらプロダクトを作成し発表を行い、研鑽を積みました。参加者の感想を紹介いたします。



グループディスカッションの様子



グループメンバーと

5年次生 細田 綾美

今回私は、他分野との交流と医療コミュニケーション能力の向上を目的に参加を決めました。セミナーには45人の保健・医療・福祉系の学生が参加しており、普段関わることのない他分野の学生と、グループディスカッションやグループ発表などを行いました。

患者のリスク事例を取り上げてディスカッションする場面では、各分野で視点が全く異なることに興味を持ちました。特に、看護学生がまず、患者の家族構成にチェックを入れていたのが印象的でした。

患者との距離が近い分野であるからこそ、患者の生活背景に気を配られているのではないかと感じ、非常に勉強になりました。学生の中に他分野との交流を持つことは、各々の仕事に対する相互理解が深まり、将来チーム医療に加わる際に互いの信頼形成に役立つのではと感じました。また医療コミュニケーションの観点においては、どの学生もいずれ同じ「医療従事者」として働くため、コミュニケーションに対する互いの意見を交換出来る今回のセミナーは、とても良い機会になりました。

5年次生 浅見 紘子

今回のテーマはコミュニケーション力についてでした。医療従事者として必ず必要なスキルを、他分野の学生と交流しながら学べるということで参加させていただきました。

ワールドカフェ形式のアイスブレイキングを行ったあと、臨床心理士の先生によるコミュニケーションの基礎についての講演を聞き、その後グループディスカッションと発表を行うという日程でした。

大学1年生から大学院生まで薬学、看護、理学療

法、臨床検査などの多分野の学生が45名参加し、分野の違いによる考え方の相違を体験することができました。専門知識が異なると、ひとつの症例に対する着目点や読み取れる内容に多くの差異が現れ、チーム医療の大切さをまさに実感できました。

学生時代から他分野の方々とは接する機会を自ら増やし、より多くの経験を積むことの大切さを知ることができた1日でした。コミュニケーション力は、意識することで日々の生活でも養うことができます。低学年のうちに参加しておきたかったセミナーだと感じました。

5年次生 宮本 花凜

大学・学部・学年を超えて学生同士でグループワークを行いディスカッションすることで、とても良い刺激を受けました。中でも一番印象的だったのは、自分の在籍している学部以外の医療系の学部又はその職種に対する知識や理解がほとんど無いということです。専門性を高めることはもちろん大事ですが、それだけではチーム医療は成り立ちません。お互いの仕事に対して理解し尊重することは、情報

の共有や円滑なコミュニケーションといった多職種連携を行う上で必要であると考えられます。仕事に対する理解は将来医療の現場に出てから得るのではなく、時間に余裕のある学生のうちに今回の合同セミナーのような機会があれば積極的に参加することでも得られます。実際に参加してみてその重要性を感じました。

9月から始まる実務実習では、医療現場で活躍している薬剤師さんがどのようにコミュニケーションをとっているか学んでいきたいと思っています。

ギヨーム・ルブラン客員教授 (ボルドー・モンテーニュ大学) 講演会

一般教育分野 講師 坂本 尚志

2014年7月11日より1か月間、フランスのボルドー・モンテーニュ大学哲学科教授のギヨーム・ルブラン氏が日本に滞在しました。今回の来日は、平成26年度日本学術振興会外国人招へい研究者事業（短期）の助成によるもので、筆者が受入研究者となり、本学客員教授として各地で講演を行いました。

ギヨーム・ルブラン教授は1966年生まれのフランスの哲学者で、フランスの科学史家・科学哲学者であるジョルジュ・カンギレムの研究によって博士号を取得後、認識論、政治哲学、社会哲学などの分野で幅広く活動をされています。新聞、ラジオ等のメディアにも積極的に寄稿・出演している、現代フランスの哲学界を代表する哲学者のひとりです。筆者の博士論文の指導教授であり、10年にわたって研究指導を受けた縁で、今回の招へいが実現しました。

今回の日本滞在では、東京（日仏会館、東京大学）、京都（京都大学、京都薬科大学）、大阪（大阪大学）、福岡（西南学院大学）にて講演を行いました。テーマは本年刊行されたルブラン教授の著作『対抗文化としての哲学』に関するものや、社会的に不安定な境遇に置かれた人々に関する哲学的考察、あるいは哲学者と結婚の関係についての議論など多岐にわたり、各地で専門家だけでなく幅広い聴衆にアピールするものでした。また、講演会以外で

も、ルブラン教授は各地で哲学、美学、政治学、教育学、等の専門家と活発な意見交換を行いました。

本学での講演会「生命倫理の考古学」は7月31日（木）に本学A33講義室で開催されました。講演は、生命倫理という思考の形態の起源は、職業倫理としての医療倫理とは別のところにあるという事実を示すことから始まりました。そして、エコロジック生命倫理と医学的生命倫理という、生命倫理の2つの異なる流れが、双方とも「生命」という近代に新たに「発見」された概念を基盤とすることで初めて可能になったことが述べられました。60名ほどの聴衆が学内外から集まり、熱心に耳を傾けました。講演後の質疑応答でも多くの質問がなされ、ルブラン教授はそれぞれに丁寧に回答されていました。本学学生の参加者も多く、講演後にも教授と議論する学生の姿も見られました。

今回のルブラン教授の訪日は、本学の研究・教育活動の多彩さを示すものであったと言えるでしょう。また、ルブラン教授との議論を通じて、日仏の共同研究プロジェクトの立ち上げ等を通じて、継続的な学術交流を行うこと、日本のみならずヨーロッパでも研究成果の発信を行っていくことが確認されました。



司会 兼 通訳：坂本講師（左）
ギヨーム・ルブラン教授（右）



講演会の様子



講演後 学生との議論

「身近な夏の不思議体験2014 山科」開催

本学と山科区「人づくり」ネットワーク実行委員会が主催する理科教室「身近な夏の不思議体験 2014 山科」が8月24日(日)、京都薬科大学にて開催された。本行事は今回で4回目の開催であり、山科地区の小学生(3~6年生)を対象に理科に対する興味を持つきっかけになればと本学学生実習支援センター教員と企画・広報課職員の協力のもと行われた。当初は約240名の応募者の中から抽選で選ばれた126名の小学生が出席する予定であったが、当日は地区の地蔵盆の祭りとなつたためか欠席者があり113名の参加となった。実験を行ったQ35実習室の収容定員により1度に全員が実験を行う事ができないため、午前の部(58名)と午後の部(55名)に分かれて実験を行った。実験では、参加した小学生全員に白衣と保護メガネを配布し研究者としての雰囲気を経験すると共に安全に対する理解を深めながら主に以下の2つの実験を行った。

1つ目の実験として、乳酸カルシウムとアルギン酸ナトリウムとの反応を利用した人工イクラを作成する実験を行った。本実験では、3色の色素(赤、黄、緑)を各生徒に配布し、人工イクラならではの色とりどりのイクラの作成を楽しんだ。

次に、高吸水性樹脂を用いた実験を行った。本実験では当初、生徒がおむつから吸水性樹脂を実際に取り出して実験をする事を計画していたが、当日は湿度が高かったためか樹脂をおむつからうまく取り出せないトラブルに見舞われた。しかし、試薬の吸水性樹脂を予め準備してあったので、この樹脂を代用品として用いることにより吸水性樹脂の性能を観察することが出来た。実験が始まり、吸水性樹脂が水を吸収すると「おー、めちゃ膨らんできたー」、「わープルプルのゼリーみたーい」といった樹脂の形状の変化に生徒達は興味津々であった。更に本実験では膨潤した樹脂に食塩を加え、吸収された水が再度、樹脂から出てくる様子を観察し、高吸水性樹

脂の不思議を楽しんだ。参加した生徒の中には、「食塩を入れると樹脂から水が出てくるのになぜおしっこを吸収するのか?」や「海水は吸収するのか?」といった実験の本質をつく質問をする生徒もおり、理解力の高さと柔軟な発想力に驚かされる一面も見られた。また、本実験で得た吸水した樹脂を土壌保水剤に応用し、そこにアルファルファの種をまいた発芽観察セットと吸水した樹脂にアロマオイルを添加したオリジナル芳香剤を作成し、お土産として持ち帰った。

今回で4回目の開催とはいえ、普段小学生相手の指導を行っていないため不安の中スタートした理科教室であったが、生徒と教員の垣根を越えたりリラックスした雰囲気の中で自然の不思議を体験することが出来た。今回の理科教室を通じて、自然の不思議が身の回りに数多く存在し、これらの不思議を解明していく理科の面白さに少しでも気づき理科に興味を持ってくれば、本学教員として幸いである。

最後に、本会の開催にあたり多大なご支援を頂きました山科“きずな”支援事業補助金交付対象事業に深謝致します。

(学生実習支援センター 助教 小関 稔)



第8回 自治会執行部主催 七夕企画

今年は6月末から七夕当日にかけて、七夕企画を実施いたしました。愛学館入口に笹を設置して愛学館に訪れた方々に願い事を書いていただく企画です。例年より期間が短いながらも、勉強や部活動、私生活のことなどについて書かれた短冊がたくさんあり、多くの方々に参加して頂きました。

七夕企画実施にあたり協力して頂いた学生課、教育後援会、企画に参加して頂いた皆様、本当にありがとうございました。



サイエンス・インカレに出場して

さとこ

薬品物理化学分野 5年次生 鈴木 智子

私は、3月1日、2日に幕張メッセで行われたサイエンス・インカレに出場しました。サイエンス・インカレは普通の学会とは違い全国から理系の様々な分野の人が集まって発表を行います。普段聞くことができない分野の発表を聞くことができ大変貴重な経験をさせていただきました。

私がサイエンス・インカレに参加して感じたことは参加していた学生はとても意識が高いことです。まだ研究室に配属されていない1、2年次生でも自主的に研究を行い発表していたことに驚きました。また、2日目には優秀発表者による口頭発表があり、その分野の知識のない人にもわかりやすく語りかける

ような発表でとても刺激を受けました。私自身もポスター発表を行いました。まったく異なる分野の人に自分の研究内容を伝えることは難しく、ポスター作りもできるだけ専門用語を使わないように試行錯誤しました。サイエンス・インカレの経験を通じて、普段私が研究していることの意義や素晴らしさをいかにわかりやすく人に伝えるかの重要性を学びました。

サイエンス・インカレは4年次生までしか参加できません。素晴らしい体験ができると思うので、ぜひみなさんも参加してみてください。



KPUこぼれ話

身近な出来事から意外と知らない薬学のこと、知ってうれしい豆知識等々、本学教員によるちょっとした“こぼれ話”を紹介していくコーナーを設けました。

「世界糖尿病デー」

公衆衛生学分野 教授 渡辺 徹志

11月14日は「世界糖尿病デー」です。世界の糖尿病人口は著しく増加しており、2013年には3億8,200万人（有病率8.3%）に上り、有効な対策が行われないと2030年までに5億9,200万人に増加すると予想されています。日本国内では、「平成24年国民健康・栄養調査」の結果、「糖尿が強く疑われる者」は約950万人、「糖尿病の可能性を否定できない者」は約1,100万人と推計されました。世界では、2013年に510万人が糖尿病の引き起こす合併症などが原因で死亡しており、6秒に1人が糖尿病に関連する病で亡く

なっている計算になります。このような糖尿病の脅威をふまえ、従来、国際糖尿病連合 (IDF) と世界保健機関 (WHO) が定めていた11月14日が「世界糖尿病デー」として国連により指定され、全世界で糖尿病抑制のためのキャンペーンが行われています。シンボルマークとして、国連の旗の色や空を表す「ブルー」と団結の象徴である「輪」よりなる「ブルーサークル」が採用されており、啓発活動として、国内各地、世界各国でブルーライトアップなど様々なイベントが行われます。

参考：<http://www.wddj.jp/> (世界糖尿デー HP)
<http://www.dm-net.co.jp/>
 (糖尿病ネットワーク HP)

私の薦める、私の一冊

薬理学分野 教授 大矢 進

大槻 久 著『協力と罰の生物学』
岩波科学ライブラリー(2014)

「君はまるでセイヨウオオマルハナバチみたいだね」と言われたら、褒められているのでしょうか？

本書では、自然界に溢れる生きものの生存競争が『協力』という“自己犠牲”によって成立していることを色々な生きものを例に挙げて紹介している。興味深いのは、自身は協力せずにある集団が構築した協力システムを利用する「フリーライダー（ただ乗り者）」が様々な生きものに存在し、これが協力システムに壊滅的なダメージをもたらすことである。しかし、協力システムの破綻を防ぐために、フリーライダーには過酷な『罰』（殺し・追い出し・仲間はずれ）が待ち構えている。

まず、自然界に溢れる『協力』について紹介している。排水口の悪臭の原因であるヌメリ汚れの「バイオフィルム」もバクテリアの『協力』戦略だと思えば、どこか愛おしく、生きものの健気さを感じる。次に、自然界の様々な場面で登場する「フリーライダー」について紹介している。「フリーライダー」は自身欠点（生育不良など）を持っており、それを補うために他者の『協力』システムを巧みに利用するが、自身が優位に立つとたちまちバランスが崩れて共倒れする。中盤では、個々の利益を追求すると『協力』が達成できないこと、つまり、『協力』と『フリーライダー』は両立しないことを「囚

人のジレンマ」を例に挙げてわかりやすく説明している。

終盤では、フリーライダーに対する『罰』のシステムを紹介している。有名なマメ科植物と根粒菌の共生関係の中で根粒菌がサボると『制裁』というべき過酷な『罰』が待ち受けている。最後に、「ヒトは罰を与えることにより快感を得る」という興味深い事例を示している。しかし結局は、「罰を与えるタイプの人」は周囲から評価されないのです。

あなたは身の回りの人たちをどの生きものに例えるのでしょうか？この本を読み終ったとき、人間関係に関する悩みがそれほど複雑でないように感じられるかもしれません。

最近、発行された同様な著書に、進化生物学者（北海道大学大学院農学研究科）の長谷川英祐 著の『働くアリに幸せを』講談社(2013)、『面白くて眠れなくなる生物学』PHP研究所(2014)があるので、合わせて紹介します。

※本書は図書館内の本誌推薦書コーナーにあります



Library News

図書館

開館日程

2014年 10月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2014年 11月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

2014年 12月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

休館
 8 : 30-21 : 00
 8 : 30-17 : 00
 10 : 00-17 : 00
 休館=館内整備

生涯教育センターからのお知らせ

「2014年度 生涯教育eラーニング講座」概要

本学で開催の「2014年度卒業後教育講座」を著作権・プライバシー等に抵触する部分を編集（削除・修正）し、WEB公開いたします。したがって、内容は本学で開催の講演とは異なります。

前期配信 2014年12月1日（月）～12月22日（月）		
1	インクレチンの基礎と臨床 ～変貌する糖尿病治療～	京都大学 大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学 教授：稲垣 暢也 先生
2	在宅医療：薬剤師に必要な視点とスキル	大和新薬株式会社 チューリップ薬局平針店 管理薬剤師：水野 正子 先生
3	炎症性腸疾患の内科治療	独立行政法人 国立病院機構 東近江総合医療センター 副院長：辻川 知之 先生
4	関節リウマチの薬物治療最前線	京都大学 大学院医学研究科 内科学講座 臨床免疫学 教授：三森 経世 先生
後期配信 2015年1月9日（金）～1月30日（金）		
1	高齢化社会のなかでの漢方の意義	医療法人 聖光園 細野診療所 理事長：中田 敬吾 先生
2	SH2014；新しい高血圧治療指針について	京都薬科大学 臨床薬理学分野 教授：中田 徹男 先生
3	小児てんかん診療のTips	京都第二赤十字病院 小児科 副部長：長村 敏生 先生
4	栄養療法の基礎知識 ～栄養管理とNutrition Support Team～	赤穂市民病院 薬剤部 薬剤部長：室井 延之 先生

注1) 各ビデオ（1コマ：100分前後）は、各視聴期間中（前期・後期）、1コマにつき5回のみ視聴可です。

注2) 認定単位は、認定機関からの単位認定条件に基づき、認定単位を付与します。

認定単位付与対象のビデオは、変更される場合があります。

* 申込受付期間：2014年9月29日（月）～10月26日（日）

* 申込方法：WEB限定受付（TEL、FAX、メールでの受付不可）

* 受講料：15,000円

* 受講対象：薬剤師（京都薬科大学および本学以外の薬系大学の卒業生）

* 認定単位：共催・公益財団法人 日本薬剤師研修センター／G01／計8単位予定（1コマ／1単位：付与条件あり）

「2014年度 実務支援セミナー」概要

* 講師：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター長 教授 高山 明 先生

* テーマ：演習「注射薬の無菌混合調製」

* 日時：2015年3月8日（日）12：00～16：00（120分×2コマ）

* 場所：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 2階 R23演習室

* 受付開始：11：00～（注：受付は、当日開始10分前までにお済ませください）

* 認定単位：共催・公益財団法人 日本薬剤師研修センター／G01／1日計2単位

* 受講料：5,000円（テキスト代含む）

* 定員：20名

* 申込方法：2014年11月15日（土）～12月14日（日）までの申込受付期間で、下記いずれかの方法で申込

① 右記URLアドレス「WEB申込フォーム」より申込 <http://skc.kyoto-phu.ac.jp/20150308.php>

② 電話にてお申込み：TEL 075-595-4677（TEL受付時間 平日のみAM10：00～16：00）

※注1：申込数而定員数を超えた場合は、抽選になりますのでご了承ください。

※注2：申込数而定員数を大幅に超える場合は、上記期間までに締切場合があります。

■ 問合先：京都薬科大学 生涯教育センター

TEL：075-595-4677（TEL受付時間 平日のみ10：00～16：00）

FAX：075-595-4683（24時間受付）

E-mail：skc-web@mb.kyoto-phu.ac.jp

■ ご注意：各プログラムの申込受付期間、内容等は変更される場合があります。

詳細は、ホームページをご参照ください。<http://skc.kyoto-phu.ac.jp/>

大学院トピックス

研究科長 小暮 健太郎

京都薬科大学大学院薬学研究科をより深く知っていただくために、2014年4月号(No. 177)から大学院研究活動等を報告しています。ぜひご覧ください。

6月26日(木)

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 Pharmaceuticals and Medical Devices Agency 1日研修

薬学専攻博士課程カリキュラムの1つである『レギュラトリーサイエンスプログラム』の受講希望者が、プログラムの出向施設となるPMDAの業務について理解を深めるため、1日研修を受けました。(詳細はP27に掲載)

6月20日(金)

課程による博士課程口述発表会開催

学位授与申請者1名の口述発表を行いました。

6月24日(火)・25日(水)

6年次生卒業論文発表会

卒業論文発表会に大学院生、外国人留学生も積極的に参加。6年次生の英語ショートトークに対して、英語で質疑応答を行い、先輩として6年次生の発表を盛り上げ、また、指導にあたりました。(詳細はP18に掲載)

6月27日(金)

特論講義・特別講義

大阪市立大学大学院医学研究科消化器内科学富永和作准教授による「腸管神経系の制御機構と機能性消化管疾患」を公開で開講しました。

7月8日(火)

特論講義・特別講義

京都府立医科大学消化器内科内藤裕二准教授による「京都から胃がん・大腸がんを撲滅するために何が必要か?」を公開で開講しました。

7月10日(木)

研究倫理に関するSGD(Small Group Discussion)を開催

31名の大学院生がグループに分かれて、例題について討論後、プロダクトを作成し、発表・質疑応答を行いました。(詳細はP26に掲載)

8月22日(金)

大学院入学選考試験日(夏季募集)

8月29日(金)

総合薬学セミナー、公開セミナー合同発表(9:35~ A31講義室)

大学院入学選考(夏季募集)合格発表(詳細はP8に掲載)



コトバの「豆クイズ」～漢字編4～

(出題者 鈴木 栄樹)

1つの漢字にも、いろいろな意味が含まれています。なかには、よく目にする漢字にも「どうしてこんな意味が?!」というようなものも。でも漢字の由来を調べていけば、それなりに納得できることも少なくありません。さて、次の空白のマス目に漢字を1字入れて、タテ・ヨコの2字熟語を2つ作ってみてください。ただし、入れた漢字の意味が異なるような熟語でないといけません。

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
歌	会	告	寒	去	物	皮	敗	罪	有
薬	合	銀	事	料	風	命	極	学	体

(解答は29ページに掲載)

大学院研究倫理教育SGDの開催

研究科長 小暮 健太郎

この1年間、研究倫理に関する諸問題が発生している事を真摯に受け止め、2014年7月10日（木）に、大学院生を対象として、研究倫理に関するSGD（スモールグループディスカッション）を開催しました。

まずは、仲間とのディスカッションにより、自分の考えを話し、相手の考えを聴き、改めて研究倫理を意識することから始めました。留学生チームは英語でのディスカッションでした。SGDは、限られた時間で有意義な討論ができるよう、事前にケーススタディー・Case-Study Approach (exercises)を配付し、例題について討論後、プロダクトを作成、発表を行うプログラムでした。31名の参加者が、それぞれ種々意見を持っており、活発な討論となりましたが、相手の意見を聴き・疑問を迫る姿が多々見受けられました。留学生もSGDにより、親睦が深まり今後の教育・研究活動にも活かされることを期待します。引き続き、e-learningによる研究倫理教育を計画しています。研究倫理を常に意識し、最新の情報を得ながら自ら研鑽していくよう心掛けていきます。



薬学専攻博士課程2年次生 吉田 拓弥

本SGDの主旨は、研究倫理についての認識を深め、議論し、解決・改善策を提案することである。実際には、研究倫理的に問題があるいくつかのモデルケースを、3～4人の大学院生で構成される各グループに割り当て、問題点の抽出と解決策の模索を行い、グループごとに発表し問題点や解決策について質疑応答を行うというものであった。

そもそも分野外の院生とディスカッションする機会自体が珍しく新鮮な気分であったが、実際のディスカッション時においては、抽出された問題点は類

似しても、グループや質問者によって様々な解釈や改善策があり、視野を広げる良いきっかけになった。企画された先生方からも率直な意見を頂戴したり、我々の意見を肯定的に受け止めて頂いた部分もあり、普段心の奥に圧縮収納してしまう悩みや不安を、ほんの少しだけさらけ出せたような気もした。

今後は、実際に各分野内で起こった実例を元に議論できるような機会があれば、より生々しくて刺激的で、建設的な“結論”が見いだせるのではないだろうか。

チョウ ワンティン

薬科学専攻博士後期課程1年次生 趙 婉廷

7月10日は研究倫理の勉強と理解のために、small group discussionに参加した。それ以前にも、研究倫理についての知識はあったが、それ程深い意識をもっていなかったことが分かった。参加したことにより、意識をもったうえで、行動を調整していけるようになったと思う。

研究倫理は私たち院生にとって非常に重要である。研究倫理は一般倫理を含めて道徳的な原則を使用して、研究行為や研究科学の発展を調整するものである。今回の研究倫理の学習を通じて、優れた研

究者として、良い基礎を築けると思う。

また、実験データの真実性と客観性の原則を守ること、他の研究者の成果を盗用する行為に反対すること、適切に証明し、著作権侵害を行わないこと、意図的に不正確な結果を隠したりしないこと。以後の研究の中で、このような意識をもつ大切さをとても理解した。

将来、私は良い研究者になるために、良好な基礎を築き、学習プロセスを改善し、自分自身の管理を強化することが必要と考えている。

薬学専攻博士課程1年次生 Li Xinpeng

A small group discussion(SGD) about the research ethics was held in our university on Jul 10th, 2014. Dr. Kogure, the dean of graduate school, hosted this seminar, and students and faculty from graduate school attended the discussion. The aim of SGD was to discuss the issues in the research ethics, and to seek the solutions to overcome these problems. The graduate students from the different laboratories discussed the ethical problems actively in terms of the specific case, and share their opinions openly with the others. The faculty guided the students to establish the correct research ethics by giving the suggestions and comments to the tough questions. At the end of discussion, all students and faculty reached consensus about the discussion topic.

I think case-study is an effective and interesting way in the group discussion, because these stories in the case-study are created based on the real story. These cases covered the various aspects in the research ethics, and had closed relations with student's research life. By studying the specific case, I have learned that a researcher should qualify the following good research ethics at least. First, as a student in the pharmacy, we should use the reliable and recognized data base to search research information, instead of copying the materials randomly in the internet. Secondly, the results generated from the experiments should be confirmed by

partners and supervisors to prove that the research is authentic and reproducible. And all the information and data could be tracked in the record. Thirdly, as a researcher in the team, we should share everything project related with partners and the supervisor including the materials, methods, and results. However, all the data and results would be regarded as confidential, and could not be shared without the permission of the supervisor. In this seminar, all graduate students realized the importance of research ethics. I believe this learning experience are very useful and helpful for my graduate study and future career in the pharmaceutical industry.

For the students from different laboratories, this group discussion also provide a good opportunity to communicate with each other, which is beneficial to enhance the friendship among the students. The discussion is a challenging process since every student must develop the ideas by arguing with the team members. Meanwhile, as a group, students have to cooperate with team member to reach an agreement. It is a good a platform to exchanges our ideas and to learn from each other. Moreover, our teachers were very nice and considerate. They prepared the bilingual reading materials for our foreign students, and explain the confusion points clearly. During the whole discussion, many snacks and beverage were supplied by the graduate school, and all students were full of energy and interest.

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構
(Pharmaceuticals and Medical Devices Agency;PMDA) 1日研修の開催

研究科長 小暮 健太郎

薬学専攻博士課程カリキュラムの1つである、『レギュラトリーサイエンスプログラム』の受講希望者3名の大学院生が、プログラムの出向施設となるPMDAの業務について理解を深めるため、1日研修を受講しました。見学に先立ち、学内でガイダンスを実施し、授業の特論で関連講義を受講し、研修に臨みました。

■実施日時：2014年6月26日(木)10:30～16:10

■研修内容：各部署からの説明講義及び施設内見学、修学職員（他大学院生2名）との意見交換

■参加者の感想（薬学専攻博士課程2年次生 山本 涼子）

唯一の行政機関であるので集まる情報量も提供する情報量も多く、だからこそ様々な企業について知ることができたり、大きなスケールの業務に携わることができたりする。反面、全ての業務が非常に重い責任を伴うものではあるけれど、医薬品医療機器総合機構でしかできない仕事、味わえない達成感がある、と何人もの職員の方々が仰っていたのが印象的でした。

また、現場で働かれている職員の方々から、直接お話を伺う機会を得られとても有益でした。実際に職場を訪れ、どのように業務にあたっているかを拝見することができたので医薬品医療機器総合機構のイメージがより明確なものになりました。また質疑応答の機会が多く、今後の医薬品医療機器総合機構について等の様々な話も聞くことができ、大変参考になりました。

2014年度 京都薬科大学 給付型奨学生が表彰されました

学生課

本学では、学生の修学支援を強化するため、2010年度に給付型奨学金制度を創設しました。

給付型奨学金制度は、優秀な人材の育成、成績向上並びに活力の醸成を図るため、成績優秀者に対して奨学金を給付するものです。今年度の給付型奨学生対象者は、新入生については入学成績が特に優秀であった学部新入生10名及び大学院新入生3名、在学生については前年度の成績が優秀な2年次生から5年次生の各学年20名及び1～5年次の総合成績が特に優秀な6年次生21名の合計114名が選ばれ、奨学金が給付されました。

また、表彰式が6月19日(木)に躬行館T31講義室において執り行われ、武田理事長から表彰状が授与されました。

学生の修学支援のためのこれらの奨学金は、卒業生(京薬会会員)、法人役員、職員、ご父母(教育後援会会員)の皆様からのご寄附により成り立っております。

皆様からの多大なるご協力に紙面をお借りして厚く御礼申し上げますとともに、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学部新入生	学部在学生					
	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
秋元 昂燁	井上 暁斗	浅田 裕美子	青木 沙織	赤谷 祥子	齋藤 真奈	
枝川 侑季奈	井上 遥加	足尾 真美	安保 菜央子	今井 梓嗟	飯田 美佳	
大島 達矢	岩崎 仁志	飯間 莉紗	宇田 歩未	大前 敬子	池上 倫代	
奥 大輝	大前 滯	梅原 祐奈	小川 裕樹	川崎 友紀	井田 安紀子	
織部 敦志	岡山 雅美	江見 結花	川上 光	菅 倫子	岡崎 秀太	
久保田 知沙	金田 彩花	面川 杏	岸本 翔	鈴木 智子	岡田 真沙	
戸田 力也	川田 奈実	梶木 香里	小山 菜々子	関 奈緒子	川岸 良佑	
藤田 滯美	河村 友惟	河添 有宏	佐分利 智子	辻 栞	岸 一俊	
藤原 怜彬	許 千晴	草野 穂	竹林 真衣	辻村 真里	金高 ころこ	
光吉 清郁	熊野 瑛巴	新谷 朋子	時光 由紀	利川 麻美	藤堂 未央	
	小畑 久美	高木 寛子	富永 南	内藤 千尋	中島 なぎさ	
	齋藤 菜月	谷岡 晃希	中尾 佳那美	野村 春菜	長戸 優也	
	柴田 かおり	砥上 宏子	西 貴之	廣田 亜里紗	成宮 久美	
	島 恭平	西鉢 文香	西本 明功	福田 浩紀	橋本 千春	
	杉山 絢香	藤田 利沙	橋本 みさき	細田 綾美	古川 琴詠	
	田中 佑果	村田 紘規	藤原 麻紀子	松井 宏樹	古田 早紀	
	中小路 千晶	矢木 夕美子	本城 綾子	村松 千愛	別府 梨沙	
	橋本 彩	矢崎 由希子	茅 薇蕾	山田 佳菜枝	堀川 隆文	
	村上 穂波	山添 晶子	松本 卓也	綿民 真衣	坊ヶ内 協子	
	森田 七海	山田 千草	渡辺 絢音	渡辺 有貴	松浦 悟	
					松尾 綾	

大学院新入生
小川 慶子
勝部 友理恵
山下 修吾



2014年度 給付型奨学生表彰者

お知らせ

2014年度 学位記授与式（前期）

10月1日（水）午後3時30分から愛学館7階の第1会議室において、2014年度 学位記授与式（前期）が執り行なわれ、乾学長から、課程博士1名、論文博士1名に学位記（博士(薬学)）が授与されました。

第20回 京都薬科大学公開講座 開催

2014年10月18日（土）に公開講座を開催いたします。今回は例年より内容を一新し、前半は講演を2題行い、後半は薬用植物園補助園にて薬草の見学・効能説明会などを企画しています。皆様のご来場をお待ちしております。 ※詳しくは本学HPをご確認ください

受賞

日本ビタミン学会 第66回大会において 学生優秀発表賞受賞

2014年6月13日・14日に姫路商工会議所にて開催された「日本ビタミン学会 第66回大会」において、薬品物理化学分野の6年次生下井雄太さんが学生優秀発表賞を受賞しました。

演題：作用メカニズム解析情報に基づくトコフェロールコハク酸の抗癌効果の増強
 演者：下井 雄太¹、濱 進¹、福澤 健治²
 小暮 健太郎¹

(¹京都薬科大学, ²安田女子大学 薬学部)

第30回 日本DDS学会学術大会において 若手優秀発表者賞

2014年7月30日（水）～31日（木）に開催された「第30回日本DDS学会学術大会」において、薬品物理化学分野の6年次生山田朝子さんが若手優秀発表者賞を受賞しました。

演題：新規遺伝子デリバリーシステム開発を目的としたパッチワーク法の確立と3枚膜被覆ナノ粒子の構築
 演者：山田 朝子¹、光枝 亜佐子¹、濱 進¹
 原島 秀吉²、小暮 健太郎¹
 (¹京都薬科大学, ²北海道大学大学院 薬学研究院)

平成26年度 日本ヘモレオロジー学会国際 合同シンポジウムにおいてFirst Winner of Scientific Poster Sessionを受賞

8月22日（金）～24日（日）にインドネシアのウダヤナ大学にて開催された「平成26年度日本ヘモレオロジー学会国際合同シンポジウム」において、代謝分析学分野の内藤行喜助手がFirst Winner of Scientific Poster Sessionを受賞しました。

演題：Zn(hinokitiol)₂ complex, as a potent anti-Diabetic candidate, activates the insulin signaling pathway in3T3-L1 adipocytes through an insulin-independent stimulation

演者：内藤 行喜¹、吉川 豊^{1,2}、安井 裕之¹



(¹京都薬科大学
²神戸女子大学)

第31回和漢医薬学会学術大会において 優秀発表賞

2014年8月30日（土）～31日（日）に千葉県で開催された「第31回和漢医薬学会学術大会」の一般口頭発表において、生薬学分野の6年次生氷室友吾さんが優秀発表賞を受賞しました。

演題：ヘンナ（ヘナ、指甲花, *Lawsonia inermis*)の生体機能解明—4：花部のがん細胞転移抑制作用

演者：氷室 友吾¹、中嶋 聡一^{1,2}、久保 祥子¹
 半田 愛¹、三浦 雅人¹、尾田 好美^{1,2}
 中村 誠宏¹、松田 久司¹

(¹京都薬科大学, ²エヌ・ティー・エイチ研)

コトバの「豆クイズ」(25ページ)の解答

- (1) 劇：「激」と同じ意味も持っています
- (2) 都：「すべて」という意味があります
- (3) 白：「もうす」という意味があります
- (4) 椿：「珍」同じ読みと意味を持っています
- (5) 過：「あやまち」という意味があります
- (6) 荷：「蓮（はす）」と同じ意味を持っています
- (7) 革：「かわ」と「あらためる」の意味があります
- (8) 北：北のもともとの意味は「背」です
- (9) 科：「しな（品・階・級）」と「とが（咎）」とう意味があります
- (10) 固：固有＝「もとよりあるもの」という意味です

※上記以外の解答がありましたら、編集委員会までお知らせください。

クラブだより

バドミントン部

活動実績

関西薬学生バドミントン大会（昨年度）
 男子シングル3位、男子ダブル3位
 京都学生バドミントンクラス別大会（昨年度）
 女子シングル3位
 新人戦 女子シングル3位

今後の予定

10月 医歯薬戦
 11月 京都学生バドミントンクラス別大会（個人）
 4月 京都学生バドミントンリーグ戦大会（団体）
 5月 四薬戦
 8月 関西薬学生バドミントン大会
 11月 京都学生バドミントンクラス別大会（個人）

マンドリン部

こんにちは、マンドリン部です。10月19日に東部文化会館で開催する定期演奏会に向けて一直線に頑張っています。8月6日から8月10日までは合宿をし、より一層レベルアップできたと思います。まだまだ未熟ではありますが、演奏会ではよい音楽をお聞かせ出来るよう、頑張ります。

いつも私たちの活動にご理解、ご協力いただき誠にありがとうございます。今後ともよろしくお願いたします。

茶道部

茶道部は毎週火曜日にお稽古しています。大学外から裏千家の先生をお迎えして習っています。

お作法はもちろんのこと、季節の行事やお茶道具にまつわるお話など先生からお話いただけるのも茶道部の魅力のひとつです。

毎年4月に建仁寺で春茶会をひらきます。他大学のかたや先輩がたをはじめ、たくさんのかたにお越しいただきました。

文化祭では『京わらべ』として模擬店を出店します。和菓子や抹茶など茶道部ならではのメニューでゆっくりくつろいでいただけます。

また3年次生の研究室配属後は休部という形で一旦部活動を休まれる先輩も多いですが、研究室が落ち着いた短期間だけ部活動に復帰されるかたもいます。今後ともよろしくお願いたします。

植物研究部

植物研究部は植物に触れることで学んだり、癒されたい人の集まりです。現在部員14名で、不定期にまったりと活動しています。

昨年は伏見にある薬用植物園の梅を使った梅シロップづくり、また歴史ある庭などを見て回る京都散策を行いました。今年はグラウンド南側にある植物補助園に植えた、バジルとナスタチウムの世話を主にしています。

今後はその2つを用いて何か作ったり、育てる植物を増やしたり、また付近の山などに植物観察に行くことを考えています。



バジルの成長の様子

柔道部

～試合成績～

〈第68回 関西薬学生連盟柔道大会〉

団体戦 準優勝

個人戦（有段の部）優勝 小西一誠（6年次生）

8月3日、武徳殿にて第68回関西薬学生連盟柔道大会が行われました。今回は当校が主管校を務め、選手、マネージャー共々、貴重な経験をすることができました。ご指導いただいた師範、並びにご支援いただいたOBの方々に感謝申し上げます。

私たち柔道部は「柔道を楽しむ」を標語とし、健全な人格を形成することを目的に、日々稽古に励んでいます。少しでも興味のある方は、是非練習を見に来て下さい。詳しくは、HPをご覧ください。

<http://judokpu.wordpress.com/>



卓球部

【戦績】

- 関東卓球大会
女子団体優勝
女子シングルス準優勝(東馬)
- 全薬卓球大会
女子団体ベスト4
女子ダブルス3位(岸本・東馬)
女子シングルス準優勝(岸本)
- 秋季四薬卓球大会
女子ダブルスベスト2(東馬・中野)
女子シングルスベスト4(東馬)
- 西医歯薬卓球大会
女子ダブルスベスト8(東馬・中野)
女子シングルスベスト16(東馬)
- 春季四薬卓球大会
女子団体準優勝
女子ダブルス準優勝(東馬・中野)
女子シングルス準優勝(東馬)

ユーベルコール部

私たちユーベルコール部は11月16日に東部文化会館で行います第51回定期演奏会に向けて日々練習に取り組んでいます。

よく耳にする合唱曲はもちろん、J-POP、ミサ曲など様々なジャンルの曲を練習しています。

他にも卒業式・入学式での学歌披露、6月には京都合唱祭に参加、さらに10月末に同じく東部文化会館で開催されるコーラスフェスティバルにも参加予定で様々なところで活動を行っています。

ヨット部

- ・活動日：毎週土曜日、第1, 3, 5日曜日
- ・部員数：15人 (1~6年次生)
- ・活動実績
2014年度春季医歯薬
4位/18艇
- ・今後の活動予定
10月・秋季医歯薬
・秋季マリーナカップ
12月中旬 シーズンオフ
(納会)
3月 活動再開



・近況報告

こんにちは。ヨット部です。平日は勉学や研究に勤しみ、週末はヨットで琵琶湖を疾走する充実した大学生活を満喫しております。決して規模の大きい部活ではありませんが、毎年少しずつ部員が増え、練習に活気が溢れてきています。その成果を発揮すべく各大会で熱いレース展開を繰り広げております。

また昨年度定年退職されました深田守先生に代わりまして、新顧問に赤路健一先生が着任されました。どうぞよろしくお願いたします。

和気あいあいと、また安全第一にsailing lifeを送っていきます。皆さまいつもご支援いただきありがとうございます。これからも応援よろしくお願いたします。

<http://kpuyacht.web.fc2.com>

人 事

採 用

基礎科学系数学分野	教 授	上野 嘉夫
創薬科学系生薬学分野	助 教	伊藤 謙
病態薬科学系薬理学分野	助 教	鬼頭 宏彰
(以上 2014. 10. 1付)		

出向受入

事務局研究・産学連携推進室	課長補佐	武野 薫
(2014. 9. 1付)		

任 命

事務局研究・産学連携推進室長代理	課長補佐	武野 薫
(2014. 9. 1付)		

昇任及び配置換

事務局庶務課	主 査	山口 貴
(前 事務局企画・広報課) (2014. 7. 1付)		

配 置 換

事務局研究・産学連携推進室	係 長	栗田 晃
(前 事務局庶務課)		
事務局企画・広報課	主 事	神田 悟
(前 事務局教務課) (以上 2014. 7. 1付)		

兼 務

事務局国際交流推進室長代理	課長補佐	川勝 章広
(2014. 7. 1付)		

兼務解除

事務局国際交流推進室長事務取扱	事務局長	村澤 悟
事務局国際交流推進室	主 事	山口 貴
事務局会計課検収係	磯部	正文
(以上 2014. 6. 30付)		
事務局研究・産学連携推進室長事務取扱	事務局長	村澤 悟
(2014. 8. 31付)		

京薬会だより

<平成26年度京薬会支部総会の開催状況>

鹿児島支部(6/22)、福井支部(6/22)、滋賀支部(7/6)、北海道支部(9/7)、京都支部(9/7)、富山支部(9/28)がすでに開催され、今後は徳島(10/26)、兵庫(11/9)、岡山(11/15)、愛知(12/7)の各支部総会開催が予定されています。京薬会より会長をはじめとする幹事、また大学より理事長、学長にもご参加いただき各地で大学と地域の交流を深めております。

<京薬祭とホームカミングデー>

今年度の京薬祭は11月1日～3日に開催されますが、最終日、11月3日(月・祝)に、今年で第5回となる京薬会主催の「ホームカミングデー」を開催します。ホームカミングデーは年々参加者が増え、昨年は100名以上のご参加をいただきました。

本年は乾学長による大学の近況に関する紹介に加

え、薬学教育評価機構・総合評価評議会前議長(京薬会会長)西野武志氏による「薬学教育評価機構による薬学部の評価について」と本学臨床薬理学分野教授中田徹男氏による「高血圧の管理指針が変わりました」の2題の講演を予定しております。ぜひお誘いあわせの上、大学へ里帰りいただき新校舎を散策し、懐かしい先生や同窓生とご歓談ください。

また、当日は京薬祭期間中ですので、現役学生との交流など楽しいホームカミングデーにしたいと考えています。そのために先着100名の卒業生の方に学園祭模擬店で使用できる1,000円分のチケットを差し上げますので多数の皆様のご来場・ご参加を期待しております。

詳しくは京薬会誌8月号、ならびに京薬会ホームページをご覧ください。

京都薬科大学奨学寄附金芳名録

下記の方々から寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

- * 高額のご寄附(10万円以上)を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。
- * 敬称略、芳名のみ掲載しております。

2014年6月～2014年8月にご寄附をお寄せいただいた方々

<卒業生・同期会等>

(卒業年次順)

石田 成弘(昭17) 森 博直(昭24) 隅田 芳男(昭45)

<企業・団体・一般>

キノンビクス株式会社

<法人役員・評議員・職員>

(五十音順)

後藤 直正(副学長) 高野 江里(課長) 富永 重夫(課長)
佐原 和美(係長) 武田 禮二(理事長) 森田 和子(理事)

(2014年8月31日現在)